

現場で社会との関わり、働き方を考える。
立命館大学サービスラーニングセンター開講授業

2018 年度 「全学インターンシップ」 受講ガイド

受講ガイドとは？

マッチングの結果が出るまで確認すべきことを掲載しています

- ガイダンスからの日程の流れ確認
- 単位授与・評価要件
- 受講中止や受講中の相談窓口、インターンシップ保険
- 受入先の一覧や概要 など



立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ1階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟1階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

(3 キャンパス共通)

窓口時間（開講期間中）：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目次

はじめに（重要なお知らせ）	3
1. サービスラーニングセンター開講科目「全学インターンシップ」とは	3
2. 「全学インターンシップ」の流れ	4
3. 立命館大学でのイントロダクション・オリエンテーションの日程・教室	6
4. 学部別単位授与について	6
5. 評価について	8
6. 受講の中止について	8
7. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	8
8. インターンシップ保険について	9
9. 「インターンシップのしおり」の配布について	9
10. FAQ	10
11. インターンシップ受入先一覧	12
12. インターンシップ受入先概要	14



はじめに（重要なお知らせ）

サービslラーニングセンターによる「全学インターンシップ」は、インターンシップ先での就業体験だけを目的としたものではありません。また、インターンシップ先は「全学インターンシップ」の受講が決定してから、「マッチング」によって決定します。

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」に参加し、この受講ガイドをよく読み、サービslラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」の授業がどんなものかよく理解したうえでエントリーしてください。

また、受講許可後は、途中で投げ出さず、インターンシップ先で活動しまた学んでいることに留意し、常に立命館大学の学生として、またインターンシップ先の団体の一員として責任を持ち、自覚ある行動を心がけてください。

※受講ガイダンス（イントロダクション・オリエンテーション）に出席していない場合もエントリー可能です。

1. サービスラーニングセンター開講科目「全学インターンシップ」とは

①参加型学習により主体的な学びの機会を創出

サービslラーニングセンターによる「全学インターンシップ」は、社会的な問題解決のための働き方を知るための、参加型学習による科目です。立命館大学では各学部のカリキュラムやキャリア教育センター等でもインターンシップを推進しています。しかし、この科目では、1999年度から2012年度まで展開してきた「ボランティアコーディネーター養成プログラム（VCTP）」の経験を踏まえ、NPO・行政機関等を中心に、受入先と受講生との協議のもと、活動計画を作成し、主体的な学びの機会を創出します。

②大学と現場での学びを接続するサービスラーニングの手法を重視

サービslラーニングセンターによるインターンシップでは、省察と互惠を鍵とするサービスラーニングの手法を重視します。事前学習（プレセミナー）と事後学習（アフターセミナー）は当然のこと、日常的に科目担当教員の指導を重ねることで、大学での学びと現場での学びを接続します。

③マッチングにより受入先を決定

インターンシップ先は「全学インターンシップ」の受講が決定した後、プレセミナーを経て「マッチング」により決定します。受講生と受入団体の対面によるマッチング相談の時間を設け、受入団体から提示されたインターンシップ計画と受け入れ学生の希望、および受講生の希望や学びの関心に基づいて、事務局にてマッチングを行います。（必ずしも第1希望の団体でインターンシップができるとは限りません）

2.「全学インターンシップ」の流れ・日程

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」

地域に入る上での気づきの準備 日時はP.6 参照

エントリー

エントリー期間

4月12日（木）10:00～ 4月23日（月）11:00

エントリー方法

サービスラーニングセンターホームページ内教育カリキュラム「全学インターンシップ」のページより、Web上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。内容をもとに選考を行い、受講可否を決定します。

選考結果発表

発表日時 : 4月27日（金）13:00

発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HPにて掲示

※今後の手続きについても案内しますので、早めに確認してください



プレセミナー1・2（授業2回分）

① グローバル化で求められる社会の関わり

鳥の目（俯瞰）と虫の目（凝視）

② 社会とボランティア、NGO・NPO

セクター（領域）とパートナーシップ（関係構築）

日時：5月13日（日）9:00～12:10 会場：OIC AN328



マッチング・インターンシップ先の決定

受講生と受入団体の対面によるマッチングによりインターンシップ先を決定する

日時：6月2日（土）9:00～12:10 会場：OIC C373 ラーニングシアター

インターン先事前訪問

インターンシップ計画書の作成のために、事前にインターンシップ先の現場を訪問し、相談を行う

※日程は受け入れ先によって異なる

プレセミナー3・4（授業2回分）

① 社会と大学を結ぶプロセスデザインと活動のマッチング

目的（達成すべき学びの確認）と目標（果たすべき役割の確認）

② 地域に入る上での気づきの準備

問いと記録

日時：6月23日（土）9:00～12:10 会場：OIC AS368



コアタイム（前期・後期開講中随時）

担当教員とインターンシップ計画書の作成、活動報告会の内容や修了レポートの作成の相談を行うのに加え、インターンシップを進めていく上で必要なアドバイスを受けます。

インターンシップ（最低 36 時間、標準 42 時間以上）

■インターンシップ（前半）「知る・見る・わかる」

- ①社会問題の発見 ②自覚と責任 ③専門性の確立

■インターンシップ（後半）「支える、企てる、担う」

- ①チームワーク ②意志と意味 ③ロールモデル



! インターンシップ（インターン先での活動）は
最低 36 時間、標準 42 時間以上が必要です。
なお、時間数は、インターンの期間や内容と共に、
インターン先との合意の上で確認、決定されることとしています。

! インターンシップノートを作成し、
受け入れ担当者に**コメントと署名・捺印**をいただく。
インターンシップ終了後は、サービスラーニングセンターの指示
に従って提出する。

中間ふりかえり（授業 1 回）

立ち止まる・見つめ直す

- ① インターンシップを振り返り
目標の再設定を行なう
② 受講生がインターンシップ中
に直面した問題や悩みや苦し
みを共感する

日時：8月23日（木）
9:00~10:30

会場：OIC AN328



アフターセミナー 1・2（授業 2 回分）

グループワークを通じた共有体験からの共通言語化

- ① 達成感と不全感 ②自己評価と相互評価 ③次の一手 ④プレゼントとしてのプレゼンテーション

日時：11月3日（土）13:00~16:10 会場：OIC B374 コロキウム

活動報告会（授業 2 回分）

- ①インターン活動で誰と共に誰に対して何をどこまで取り組んだのか？
②インターンが現場に関わることで現場の何が変わったか？
③設定した目標はどれくらい達成できたか？
④全体で得た学びは個々の受講生がどのように活かせるか？

発表：ポスターセッション 30分×4セッション ※発表準備はグループ全員で行う。

日時：11月24日（土）13:00~16:10 会場：OIC C373 ラーニングシアター



評価対象物（レポート）提出

提出期間：11月24日（土）~12月14日（金）manaba+R

3. イントロダクション・オリエンテーションの日程・教室

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」

※受講を考えている方はできるだけ出席してください。

衣笠キャンパス			
月日	曜日	時限	教室
4月9日	月	6	敬学館 KG001
4月19日	木	6	敬学館 KG001

BKC			
月日	曜日	時限	教室
4月9日	月	6	アドセミナリオ A210
4月18日	水	6	アドセミナリオ A210

OIC			
月日	曜日	時限	教室
4月9日	月	6	AN221
4月17日	火	6	AN221



内容	月日	曜日	時限	キャンパス	教室
プレセミナー1・2	5月13日	日	1・2	OIC	AN328
マッチング	6月2日	土	1・2	OIC	C373 ラーニングシアター
プレセミナー3・4	6月23日	土	1・2	OIC	AS368
中間振り返り	8月23日	木	1	OIC	AN328
アフターセミナー1・2	11月3日	土	3・4	OIC	B374 コロキウム
活動報告会	11月24日	土	3・4	OIC	C373 ラーニングシアター

4. 学部別単位授与について

サービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」は、単位数は2単位、受講登録制限外科目です。配当回生は2回生以上（2012年度以降入学生のみ）で、2018年度は2～7回生のみ受講できます。

サービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」の単位授与分野、科目名は、所属学部によって異なります。また、学部独自に開講している「協定型インターンシップA」やキャリア教育センター開講の「協定型インターンシップB」の単位数をあわせて、要卒単位として認められる上限単位数が定められています。

必ずP.7の一覧を確認してください。

（協定型Aは「協定型インターンシップA」、協定型Bは「協定型インターンシップB」の略です）

学部	類型	単位授与分野		科目名	要卒単位における上限
法	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	2012～2015年度 入学生	専門（学際）	全学インターンシップ	全学インターンシップは、1科目2単位まで ※全学インターンシップ、コーオプ教育概論、コーオプ演習をあわせて6単位まで（詳細は履修・登録の手引き参照）
		2016年度以降入学生	教養科目 C 群		
経済	協定型A	2012～2016年度入学生	専門	国内インターンシッププログラム（専門） 海外インターンシッププログラム（専門）	2科目以内かつ、4単位以内
		2017年度以降入学生	専門	海外インターンシッププログラム	
	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	専門		全学インターンシップ	
経営	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	2科目以内かつ、4単位以内
産業社会	協定型B	2012～2017年度入学生	自由選択	国内インターンシップ（専門） 海外インターンシップ（専門）	2科目以内かつ、4単位以内
		2018年度以降入学生	発展科目	キャリア形成特殊講義（インターンシップ）	
	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	
国際関係	協定型A	2012～2017年度入学生	固有専門関連	IR18-FJ205 インターンシップ	8単位以内
				IR18-FE301 Internship	
		2018年度以降入学生	固有専門関連	IR-EDR206インターンシップ （国際関係学専攻）	
				IR-EDS202Internship （GS Major）	
	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	基礎		全学インターンシップ	
政策科学	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	2012・2013年度入学生	開講しない	全学インターンシップ	—
		2014～2017年度入学生	自由科目		制限なし （＊要卒外認定とする。）
		2018年度以降入学生	ヴィジョン展開科目		制限なし
文	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	4年間で2科目以内かつ、4単位以内
映像	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	2科目以内かつ、4単位以内
理工	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	8単位以内 （これを超えた単位数は卒業に必要な単位数には含みません。）
情報理工	協定型A	共通専門		特殊講義（共通専門）	4単位以内
	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	4単位以内
生命	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	卒業に必要な単位として算入できるのは8単位が上限 （ただし単年度につき4単位以内。3単位もののインターンシップを履修した場合、2単位分を認定）
薬	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	卒業に必要な単位として算入できるのは4単位が上限 （ただし3単位もののインターンシップを履修した場合、2単位分を認定）
スポーツ	協定型A	2012・2013年度入学生	専門・共通	インターンシップ（国内）	「インターンシップ（国内）」 「インターンシップ（海外）」 「サビ・スラーニング（専門）」 で3科目以内かつ、8単位以内
				インターンシップ（海外）	
	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ		専門・共通	インターンシップ（国内）	
				インターンシップ（海外）	
	協定型A	2014年度以降入学生	専門・共通	インターンシップ（国内）	「インターンシップ（国内）」 「インターンシップ（海外）」 「サビ・スラーニング（専門）」 で3科目以内かつ、8単位以内
				インターンシップ（海外）	
サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目 C 群		全学インターンシップ	「全学インターンシップ」 は2科目以内かつ4単位以内	
			全学インターンシップ		
総合心理	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	全学インターンシップは、1科目2単位まで
食マネジメント	サビ・スラーニング・センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	全学インターンシップは、1科目2単位まで

5. 評価について

「全学インターンシップ」は、通年科目で単位数は2単位、P/F（合格/不合格）評価です。評価は下記の要件とそれぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、プレセミナー、中間ふりかえり、アフターセミナー、活動報告会のすべてに出席していること
- ② インターンシップ（インターンシップ先での実習）を最低 36 時間以上行なっていること
- ③ 定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること



諸注意

- ・ 立命館大学の全学部2年生～6年生がサービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」を受講することができます。ただし、所属学部によって単位授与分野が異なります（一部、**要卒単位としない学部もあります**）。詳しくは、P6を参照してください。
- ・ プレセミナー、中間ふりかえり、アフターセミナー、活動報告会の欠席は、**原則認められません**。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む2日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。担当教員、もしくはサービスラーニングセンターで相談してください。
- ・ なお、インターンシップの時間数は、インターンの期間や内容と共に、インターン先との合意の上で確認、決定されることとしています。

6. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講が許可された後に受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し（受講辞退）にはならず、F評価となります。

7. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定します。

インターンシップを進めるにあたり、インターンシップ先との関係作りや、心構えなどの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。サービスラーニングセンターに併設されている学生ルームは、本授業の受講生も利用できます。

【サービスラーニングセンター】

衣笠：有心館1階

BKC：アドセミナリオ1階

OIC：A棟1階AN事務室



8. インターンシップ保険について

「全学インターンシップ・プログラム」に参加する場合、研修が始まる前までに公益財団法人日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険（インターンシップ・教職資格活動など賠償責任保険）」に加入する必要があります。

費用は大学が負担し、手続きは大学で行いますので、受講生が負担する費用や必要な手続きはありません。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、下記 URL を参照してください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>（公益財団法人日本国際教育支援協会のページ）

9. 「インターンシップのしおり」の配布について

「全学インターンシップ」のプレセミナー開始後に、受講生のみなさんに「インターンシップのしおり」を配布します。このしおりには、実際インターンシップを進める上での注意事項や、事前訪問の方法、緊急時の連絡先などを記載しています。必ずこのしおりに記載されている内容をよく読んでインターンシップを進めてください。

【参考：しおりの内容（抜粋）】

- ・ 事前学習方法（資料・文献の入手方法など）
- ・ インターンシップ計画書の作成方法
- ・ 事前訪問の際の注意点
- ・ 心得ておきたいマナー（メールの書き方、お礼状の書き方など）
- ・ 緊急連絡先など



10. FAQ

Q1. サービスラーニングセンターが開講する2つのインターンシップに参加できますか？

A1. サービスラーニングセンターが開講する「全学インターンシップ」では、1年で1人の受講生が参加できるのは、1つのインターンシップのみです。年度が異なる場合の受講については、P7を確認してください。

Q2. プレセミナーやアフターセミナーを受けずに、インターンシップにだけ参加できますか？

A2. いいえ。「全学インターンシップ」は、インターンシップ先でのインターンシップと、プレセミナー、活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。
※受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」は参加していなくてもエントリーは可能です。

Q3. お金がかかりますか？

A3. インターンシップ先によって異なります。
受講料などはありませんが、インターンシップ先へ向かうための交通費や終日インターンシップを行なう場合の昼食代など食費がかかる場合があります。

Q4. インターンシップの経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。インターンシップの前後にプレセミナーやアフターセミナーがあるので、未経験の受講生も安心して受講できます。
インターンシップ中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。
ただし、授与分野等は学部によって異なります。P6を確認してください。
(一部、要卒単位としない学部もあります)



Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。プレセミナーやアフターセミナーなどの講義・演習の実施日は、土日に設定していますので、基本的に大学の授業と重なることはありません。
インターンシップの実習日と他の授業が重なった場合は、インターンシップ先と調整してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。

Q7. インターンシップの日程、時間はどのように決まりますか？

A7. 既に日程が決定しているインターンシップ先もありますが、多くの場合、ある程度の時期が決まっている中でインターンシップ先と調整して日程を確定していきます。

Memo 欄

[illegible]

11. インターンシップ受入先一覧 【全キャンパス所属学部対象】

No.	インターンシップ先（五十音順）	キーワード・分野	プロジェクト名	ページ
1	特定非営利活動法人 碧いびわ湖	幼児教育・保育		14
2	茨木市市民活動センター （NPO法人いばらき市民活動推進ネット）	中間支援	茨木市市民活動センターの役割 と運営、茨木市内市民公益活動 の実状	16
3	特定非営利活動法人 HCCグループ	中間支援・ 交流イベント企画	①フェアトレード 事業の販売促進と市 民交流事業 ②学生と市民活動団体のテーマ 型交流事業	18
4	近江兄弟社高等学校	青少年・ 対人援助	学校内でのボランティア（対人 援助活動）の体験、および「デ ィネット」業務の理解	20
5	大阪府福祉部地域福祉推進室地域福祉課	地域福祉	「民生委員・児童委員活動の見 える化」プロジェクトの実践～ 未来の地域社会を支える若者 （大学生）が民生委員・児童委 員活動を知り魅力をPR～	24
6	特定非営利活動法人 きょうとNPOセンター	中間支援・ 情報発信	学生・若者とNPOとをつなぐ NPOのためのPRプロジェクト	26
7	認定NPO法人気候ネットワーク	環境・ 教育イベント	自然エネルギー100%社会実現 プロジェクト	30
8	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市中京青少年活動センター	青少年・ イベント企画	「なかせいオープンデイ」での 企画・広報	32
9	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市伏見青少年活動センター	多文化共生・ 異文化交流	多文化共生・異文化交流の担い 手育成プログラム	34
10	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター	中高生支援・ 居場所作り	10代のための居場所作り	36
11	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター	居場所作り・ 清掃・ イベント企画	コミュニケーションが苦手だっ たり対人関係の構築がうまくい かなかったりする若者の居場所 づくり活動（ごぶSAT）の運営を 通して寄り添い型の支援につい て学ぶ	38
			若者が地域と関わるきっかけ作 り	40

12	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市下京青少年活動センター	地域参加・ イベント企画	＊青少年が地域（商店街）に赴き地域の人と交流したり行事に参加することで地域の特徴や、魅力、社会参画とはどのようなものかを知る ＊地域の課題を発見する前段階として地域（の人）と関わることの楽しさを体験的に学ぶ	42
13	公益財団法人草津市コミュニティ事業団 草津クリアホール	コミュニティラジオ	あなたも市民パーソナリティ！ ラジオ番組を作ろう！	44
14	草津市国際交流協会	国際交流・多文化共生	「国際交流・多文化共生イベントの企画・運営」	46
15	湖南省国際協会	多文化共生・学習支援	日本語を母国語としない子供たちへの学習支援と外国人市民への 「使えるにほんご基礎学習」サポートを通して地域の課題や国際協会の役割を学ぶ	48
16	シチズンシップ共育企画	教育・ファシリテーション青少年	若者が「社会づくり手」になる学びや制度をどうデザインするか？ -中高生対象シチズンシップ教育プログラムと若者の市政参加の仕組みづくり検討-	50
17	特定非営利活動法人 D.Live	子ども・授業企画実施	「自信を取り戻す教室」に参加して思春期の子どもとの関わり方マニュアルの作成	54
18	社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター野洲	障がい児・サマースクール	野洲市障がい児サマースクールへの参加を通して障害児への余暇支援についてボランティアコーディネートの実践について一緒に考え学びましょう	58
19	特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば	子ども 生活・学習・余暇支援	子どもが抱える「困った」を地域で解決していくための取り組み、仕組みづくり	60
20	特定非営利活動法人ユースビジョン	中間支援・地域活性化	輝く学生応援プロジェクト「むすぶネット（学生・地域連携ネットワーク）」登録学生サークルへのヒヤリング調査	62
			輝く学生応援プロジェクト「学生Place+（がくせいぷらす）」登録団体へのヒヤリング調査	66
21	特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼレクラブ	子ども・障害児	障害のあるなしにかかわらず普通の暮らしの中で「共に育つ」ことの意味を理解する	70

12. インターンシップ受入先概要

1. 特定非営利活動法人 碧いびわ湖

碧いびわ湖のプロジェクト内容は届き次第掲載します。

碧いびわ湖のプロジェクト内容は届き次第
掲載します。

2.茨木市市民活動センター（NPO 法人いばらき市民活動推進ネット）

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

茨木市市民活動センターの役割と運営、茨木市内市民公益活動の実状

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

市内の多様な市民公益活動の実態を知り、その拠点としてのセンターの役割を理解する。
（市民活動の支援、活動団体の育成、各機関との連携などから、新たな活動の展開を図るなど）

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

昨今、「市民と行政の協働」が大きく叫ばれているなかで、特に市民活動への期待は大きいものがある。人々が住みよい街づくりを目指す中で、市や町の課題を共通認識し、それぞれの立場で活動しつつ互いの活動を理解し、協働と連携を深めることが求められている。市民活動センターの役割は、まさにそこにある。

①市民活動団体を支援する。②様々な機関を繋げる。③活動に必要な情報の発信と伝達をする。

この三つの役割を果たすために、センター機能の充実を図り、様々な事業を展開している。インターンの皆様には、これらを理解していただき、若い感性と実行力で、センターに新しい風を入れていただきたいと期待しています。

プロジェクトの活動概要

市民活動センターの日常の業務を理解してください。市内の活動団体の状況と内容を知り、それら団体にどんな支援が出来るのかを考えてください。センターとしての事業の概要を説明しますので、新しい気づきがあれば、事業の企画提案、実行等にかかわってください。

すでに計画中の事業については、開催までの準備、実施に参加してください。

茨木市内に止まらず、出来るだけ他市の状況を知るために、北摂内の活動センターを訪問します。

スケジュール

日	テーマ	詳細
第1日	オリエンテーション	施設案内、スタッフ紹介、事業説明、目標の設定
第2日	実習	センターでの資料閲覧、来所者対応の実習 他施設見学
第3日	実習	事業企画の提案と実行に向けてのプログラム作成
第4日	実習	センター事業への参加
第5日	実習	〃
第6日	実習	〃
最終日		活動のまとめレポート作成

受け入れにあたって

募集定員：1 名

活動場所・アクセス 茨木市市民活動センター 茨木市駅前四丁目 6-16 クリエイトセンター 1 階 阪急茨木市駅、JR 茨木駅より徒歩 7 分 Tel 072-623-8820 Email ibaraki-npo@cyber.ocn.ne.jp
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 市民活動に対する基本的な知識 PC 操作（メール、ワード、エクセル）
読んでおくべき事前資料および参考文献 茨木市市民活動センターのホームページ（茨木市Ｈ・Ｐ 茨木市市民活動センターで検索） 掲載の登録団体の概要、センター事業等に目を通しておいください。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 来所者への対応に注意 わからないことは担当者に相談する。必ず報告。 市民公益活動支援のための事業の企画と実践に関わっていただきたい。

受け入れ団体について
団体名： 茨木市市民活動センター（NPO 法人市民活動推進ネット） 団体のミッション： ・当センターは、市民公益活動の拠点として一般市民や団 （活動目的） ・支援のために、設備の充実と種々の事業を開催する。 ・センターが仲立ちとなって市民と様々な機関（行政、企業、大学など との連携を図る。 事業概要： ①センターの運営 ・貸し出し（会議室、ブース、ロッカー、メールボックス） ・印刷機、コピー機等、器材の使用と管理 ・来所者への対応 ・各種展示物、案内、書籍、団体紹介資料の管理 ②センター事業 ・各種講座、講習会の開催 ・ボランティア養成講座の開催 ・広報誌発行 ・活動相談事業 ・ギャラリー事業 ・市内商業施設でのイベントの開催 ・茨木市民の防災ならびに災害時ボランティア活動の推進 事務所所在地： 茨木市駅前四丁目 6-16 クリエイトセンター 1 階 連絡先： Phone/fax：072-623-8820 e-mail: ibaraki-npo@cyber.ocn.ne.jp 担当者（センター長）： 奈良平典子

担当者（スーパーバイザー）からのメッセージ
市民の多様な活動と生き方に知ったり様々な機関との接点は、人としての視野を広げ、今後の社会人としての生き方に役立つと思います。私たちも若い感性と行動力に期待しています。

3. 特定非営利活動法人 HCC グループ

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

①フェアトレード事業の販売促進と市民交流事業/②学生と市民活動団体のテーマ型交流事業

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ①学生が販売を体験した上、フェアトレード商品の販売やこれに付随するイベント等で、フェアトレードについて市民の認知の向上と販売促進を企画立案し、実際に運営、効果の検証を行う。
- ②学生が市民活動団体と連携しながら、相互に交流する事業の企画運営を通じて、市民活動団体の運営に対する理解を深め、企画運営能力の獲得を目指す。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

- ①当法人は大津市中心市街地において 10 年間フェアトレード事業を展開し、現在は町家を共同賃借し、週 2 日ショップを運営、およびオーガニックマーケットなどで出店している。学生の視点から、フェアトレードに対する市民の認知や理解を広めるプロジェクトを期待している。
- ②大津市市民活動センターは市内の市民公益活動の中間支援施設である。市内には福祉や教育、環境などさまざまなテーマを持つ団体がある。学生の視点から同分野、または横断的なテーマを設定した交流の機会を提供して、市民活動団体の連携が進むことを期待している。

プロジェクトの活動概要

- ①フェアトレード事業
 - 1. ショップやマーケットなどでのフェアトレード商品の販売体験
 - 2. フェアトレードを巡る社会的状況についての市民の認知や理解の向上、販売促進に向けたプロジェクトの企画立案
 - 3. プロジェクトの運営（実験）と事業評価
- ②中間支援事業
 - 1. 大津市内（ケースによっては市外を含む）の市民活動団体の実態を調査し、市民活動団体が交流することで相互に啓発、連携の可能性があるテーマを設定する。
 - 2. テーマに基づき、市民活動団体への交流事業への参加を呼びかけ、交渉し、企画を詰める。
 - 3. 交流事業の運営と事後評価

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日	テーマ	研修内容
7 月	フェアトレード商品の販売体験	週 2 回のショップ運営やマーケットの出店（第 3 日曜日など）、イベントへの参加体験
8 月	企画立案	市民の認知向上や販売促進のための企画立案
9-10 月	事業運営	企画した事業の運営（効果を見るために複数回実施）
11 月	事業評価	事業運営前後での効果の検証
7 月	市民活動団体の実態調査、テー	大津市の統計、市民活動団体のデータなどの基礎調査を行

	マ設定	い、テーマを設定
7 月後半	交流事業の企画、交渉	交流事業の企画、市民活動団体との連絡、交渉
9 ～ 10 月	交流事業の運営、事後評価	交流事業を学生主体で運営、啓発や連携の面から事後評価
受け入れにあたって		
募集人数： 5 名		
活動場所・アクセス		
大津市浜大津 4-1-1 浜大津明日都 1 階（京阪浜大津駅すぐ）大津市市民活動センター他		
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など		
悩むことを楽しむ力		
読んでおくべき事前資料および参考文献		
適宜指示		
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）		
・ 主体的に企画してください(手足は要りません) ・ つまらない言い訳は要りません(USB が壊れた等等) ・ 自分で勉強してください(自分でどこまでどのように調べたがわからない、という質問のみを受け付けます) ・ スケジュールは自分で管理してください。 ・ PC は持参してください		
受け入れ団体について		
団体名：NPO 法人 HCC グループ 研修先部署名：特になし 団体のミッション（活動目的）： まちづくり 事業概要：まちづくり、グリーンツーリズム、フェアトレード 研修先所在地：大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1 階大津市市民活動センター他 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：077-527-8661 phone:077-527-8661 / fax: 077-527-8662 /e-mail: asano.s@movementotsu.com 研修責任者（スーパーバイザー）：浅野智子		
研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ		
①フェアトレードは遠い国の可哀想な人を助ける事業ではありません。「いいこと」をするための事業ではなく、自分の加害者としての立ち位置を見つめ直す機会にしてください。また販売やマーケットは楽しい事業ですので素直に楽しんでください。 ②1つの事業をはじめから企画をするのはしんどい作業ですが、楽しく創造的な作業ですので好奇心でチャレンジしてみてください。社会に出たときに役に立つと思います。若いスタッフや学生が多い NPO ですので、楽しむ場所にもしてください。		

4. 近江兄弟社高等学校

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学校内でのボランティア（対人援助活動）の体験、およびコーディネート業務の理解

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

ボランティア体験を通じて、自分自身の対人コミュニケーションをふりかえる。

学校現場における大学生ボランティアの活動の意義と可能性について考える。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

近江兄弟社高校単位制課程（在籍生約 240 名）では、「ラーニングアシスタント（略称：LA）」という大学生のボランティアスタッフによる、高校生への学校生活支援の活動を行っています。約 10 名の LA が、生徒の話を聞いたり、教科の勉強を手助けしたり、学校行事へ一緒に参加したりと様々な領域で活動しています。「先生」でも「生徒」でもない若者たちが学校の中に入り、生徒たちが学校生活を快適に送れるようサポートする、こうした取り組みの意義は大きいといえます。

LA は対人援助に携わるボランティア活動であり、自身のコミュニケーションスキルの向上が不可欠です。そこでボランティアスタッフは、高校生との日常的な関わりや LA によるミーティング等を通じて、自分のコミュニケーションをふりかえり、そのスキルの向上について考えていきます。また、ボランティアメンバー同士の関係作りも大切な要素です。学校現場に大学生のボランティアスタッフが存在することの意義と、その活動のあり方について考えるインターンシップにしてください。

プロジェクトの活動概要

- ① LA 活動への参加（高校生と関わるボランティア活動の体験）
 - ② LA ミーティングの企画・運営（ボランティアスタッフのコーディネート）
 - ③ LA 研修会の企画・運営（ボランティア育成の研修プログラムを考え、実施する）
- ※上記の中から、各人の関心に合わせてプログラムを選択し、計画を立ててもらいます。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018 年 9 月 3 日 ～ 2018 年 11 月 30 日 日数： 7 日

日	テーマ	研修内容
1 日目	オリエンテーション	インターン実習内容の計画作成
2～4 日目	ボランティア体験 (LA 活動・LA ミーティングへの参加)	ボランティア活動の体験および毎日のふりかえり ボランティアスタッフとの顔合わせ
5～7 日目	コーディネーター業務の補助・研修の 企画	コーディネーター業務(活動内容の発信・ミーティングの準備等)の補助、研修会の企画・準備
7 日目	ふりかえり	インターンシップ活動全体のふりかえり
※全日程	ボランティア活動参加 (平日 12 時～18 時頃)	LA 活動の体験（高校生との関わり・学校行事への参加）

受け入れにあたって

募集人数：3 名（18～30 歳くらいまでの方で、日程条件をクリアできる方）

活動場所・アクセス

近江兄弟社高校単位制課程（滋賀県近江八幡市）の校舎内および、学校行事の会場

アクセス：JR 近江八幡駅から近江鉄道バス「長命寺行」約 10 分「ヴォーリズ学園前」下車すぐ

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 対人援助に関心のある方（経験は問いません）、パソコンで文書作成やメール操作ができる方
読んでおくべき事前資料および参考文献 近江兄弟社高校・単位制課程についての資料 「出会いなおしの教育－不登校をとともにいきる－」春日井敏之・近江兄弟社高校単位制課程編著 ミネルヴァ書房 2013 年
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 遅刻や欠席については、必ず担当者に連絡を入れてください。 ・ 服装・髪型は普段通りでかまいません。ただし、高校生と接することを考えた節度あるものにしていただくようお願いします。 ・ 担当者には、活動に関する報告・連絡・相談をしっかりと行うようにしてください。 ・ オリエンテーションで説明する、個人情報の取り扱い等についての事項を守ってください。 ・ 8 月は本校が夏季休暇期間のため、インターンシップ期間は 9 月～11 月の約 3 ヶ月間に渡る予定です。この期間に柔軟なスケジュール調整が可能な方を優先します。

受け入れ団体について
団体名：近江兄弟社高等学校 研修先部署名：単位制課程 団体のミッション（建学の精神）：イエス・キリストを模範とする人間教育 事業概要：ヴォーリズ学園には、子どもセンター・小・中・高校があり、それぞれの教育目標を掲げて教育活動を行っています。 研修先所在地：〒523-0851 滋賀県近江八幡市市井町 177 報酬、交通費の支給：交通費実費支給 連絡先 phone: 0748-32-3444（代表）/ fax:0748-32-3994 / e-mail:nomoto_m@yahoo.co.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：野本実希

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
「対人援助活動」や、「学校現場でのボランティア活動」に関心のある方にとっては、得るものの多い活動だと思います。プログラムには柔軟性をもたせていますので、自分がインターンシップの活動を通して得たいものを明確に持ち、それにもとづいた計画を立ててください。

5. 大阪府福祉部地域福祉推進室地域福祉課

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクトの実践

～未来の地域社会を支える若者（大学生）が民生委員・児童委員活動を知り、魅力を PR～

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

◇本事業への参画を通じて、参加者が民生委員・児童委員（以下「民生委員」という。）の役割・活動内容等の理解を深めるとともに、自ら習得した知識を基に、民生委員活動を広く PR し、認知度向上を図るとともに、新たな担い手確保を促進します。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

◇現在、府域では約 13,000 人の民生委員が厚生労働大臣の委嘱を受け、無報酬の特別職の公務員としての位置づけのもと、地域の見守りや相談・支援、地域福祉活動等に取り組んでいます。

◇しかしながら、急速に進む少子高齢化をはじめ、社会・経済環境の構造的変化を背景に地域福祉を取り巻く環境が著しく変化している中、生活困窮者の自立支援など、「新たな福祉・生活課題」への対応等に加えて、住民に身近な「民生委員」の職務内容の重要性、多様・複雑化、専門化に伴い、民生委員の負担感や高齢化も相まって不足する傾向にあり、新たな担い手を確保することが府の喫緊の課題です。

◇こうした状況の下、民生委員の新たな担い手確保に向け、ターゲットの裾野を拡げるため、大学生を対象に民生委員活動へ触れる機会を提供し、自身が暮らす「コミュニティのあり方」や「ボランティア活動等の社会貢献」など、地域社会への関心の高まりと豊かな人間力の醸成等を通じて、地域を担う人材発掘・確保をめざします。さらに、プログラム参加者は民生委員活動の意義や魅力について広く情報発信を行い、民生委員のイメージアップを図ります。

プロジェクトの活動概要

- ①『事前研修（講義&グループワーク）』
 - ・インターンシップに求められるスキル・ノウハウや民生委員活動の PR 内容の作成手法を習得
- ②『インターンシップ』
 - ・民生委員に随行し、地域福祉の実態を把握
（高齢者の安否確認への同行、地域福祉活動への協力等）
- ③『事後研修（グループワーク）』
 - ・②のふりかえり
 - ・活動報告会の発表資料や活動 PR 内容（動画・フリーペーパー等）作成等
- ④『活動報告会』
 - ・②の報告及び活動 PR 内容の発表（ポスターセッション等）
 - ・研修プログラム修了者に対し「民生委員・児童委員サポーター認定証」の交付

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）		
研修の期間：2018 年 8 月中旬 ～ 2018 年 10 月下旬（予定）		日数：概ね 10 日程度
日	テーマ	研修内容
8 月中旬 [大阪府庁]	①事前研修	
	プロジェクトの趣旨や、 民生委員制度を理解する [講義]	◇プロジェクトの趣旨・目的、研修プログラムの説明 ◇制度の基礎知識（役割・活動内容等）や課題等を理解
	基礎知識を習得する [講義&グループワーク]	◇「地域福祉に関する基礎知識」や「魅力発信手法」等を理解・習得
8 月中旬 ～9 月中旬 [大阪府内]	②インターンシップ	
	民生委員の実体験を聴取する	◇民生委員から活動内容や困難事例等の実体験をヒアリングし、意見交換を実施
	民生委員活動を実践する	◇民生委員活動に密着し、多様な世代が暮らす地域福祉の実態・課題等を習得 [活動内容(例)] 地域住民の見守り支援、地域福祉活動への協力、 行事・事業・会議への参加・協力、行政への協力
9 月中旬 [大阪府庁]	③事後研修	
	民生委員活動をふりかえる [グループワーク]	◇民生委員活動の『現状把握と課題整理』を実施 ◇地域福祉の充実を図る新たな施策を検討
	活動報告会の発表資料を作成する [グループワーク]	◇ふりかえり内容を取りまとめ、『活動報告と新たな施策提案』を盛り込んだ発表資料を作成するとともに、民生委員・児童委員活動の『PR コンテンツ』を作成
10 月下旬 [大阪市内]	④活動報告会	
	民生委員活動の課題解決を図る新たな施策を提案する	◇活動内容や PR 内容を発表し、認知度アップを図る（ポスターセッション等） ◇プログラム参加者にサポーター認定証を交付

受け入れにあたって

募集人数： 10 名
活動場所・アクセス ◇①③：大阪府庁（大阪市営地下鉄・京阪電車「天満橋」駅、大阪市営地下鉄「谷町四丁目」駅） ◇②：大阪府内。研修先は参加者と調整して決定します ◇④：大阪市内（予定）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ◇パソコン操作（メール・ワード・パワーポイント）が可能な方
読んでおくべき事前資料および参考文献 ◇「民生委員・児童委員制度のあり方検討部会」報告書 http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/18550/00202430/houkokusyo.pdf ◇「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクトホームページ http://www.pref.osaka.lg.jp/chiikifukushi/mieruka/
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ◇民生委員は個人情報に基づき日々活動等を行っているため、随行や情報発信等の活動を行うにあたり、その取扱いに十分な留意が必要です。（＊事前研修の中で、個人情報の保護など、インターンシップに求められる知識などを学んでいただく予定です）

受け入れ団体について
団体名：大阪府 福祉部 研修先部署名：地域福祉推進室 地域福祉課 団体のミッション（活動目的）： 住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担う（地方自治法第1条の2第1項） 事業概要：地域福祉の推進に関すること、民生委員法の施行に関すること（大阪府処務規程より抜粋） 研修先所在地：大阪市中央区大手前2丁目 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone：06-6944-6657 /fax：06-6944-6681 /e-mail：chiikifukushi-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：大久保信一・土山幸穂・藤澤桃

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
今から100年前、民生委員の前身である「方面委員制度」が大阪にて創設されました。その後、全国的制度へと普及して脈々と受け継がれた今、民生委員は「地域」という現場の最前線で高齢者や子育て世帯等の見守り活動等を通じて日々住民の暮らしに向き合い、課題発見・解決へつなげる取組みを行っています。 本プログラムへの参加を契機として、未来の地域社会を支える皆さんに、地域活動に関心を持ち、地域課題を知っていただきたいと思います。皆さんの活力は地域にとってかけがえのない財産です。 地域福祉に関心のある方、行政による福祉への関わり方に興味のある方、ぜひ私たちと一緒に皆さんのパワーを結集し、地域を支える民生委員の認知度アップ活動等を通じて、地域福祉の向上に取り組んでみませんか。

Memo 欄

This image shows a full page of blank white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a template for writing or drawing. There are no margins, text, or other markings present.

6. 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学生・若者と NPO とをつなぐ NPO のための PR プロジェクト

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

■ 京都の NPO やボランティア活動について知る、理解を深める

・きょうと NPO センターが指定管理者として運営をする京都市市民活動総合センターにおいて、センターの運営スタッフと一緒に働くことを通じて、京都の NPO やボランティア活動の現状と、支援活動の現状について知り、まずは皆さんに理解を深めていただきます。

■ 学生の視点で、京都の NPO 等や支援活動の現状について発信するー

*インターンシップ生の興味関心分野や、得意な技術などを総合的に加味し、ゴール設定を行います。

A(選択): イベント企画の実施

主に学生・若者を対象に NPO や市民活動の意義や役割をどのように伝えたら良いのか、独自企画を検討(例:「マンガでみる社会の課題と市民の公益活動」など)し、実施する。
もしくは SNS 等で発信する。

B(選択): 情報発信サポート

NPO のイベント情報やボランティア募集情報などの情報を収集し、魅力的な情報発信のために情報の見せ方や伝え方のアドバイスを NPO 団体に行う。(キャッチコピーやリード文の提案)
写真やイラストが得意な学生においては、情報発信時に効果的な素材の作成もサポートする。

C(必須): ラジオでの取り組み紹介

きょうと NPO センターがコミュニティ放送局において企画・制作をしているラジオ番組「KYOTO HAPPY NPO!」にて上記取り組みの様子もしくは NPO 団体を紹介する。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

2011 年東日本大震災以降、NPO 等やボランティアへの活動が改めて注目され、今や NPO 法人の数は全国で 5 万を超えるほどまでになりました。NPO 等への期待が高まり、活動が広がる一方で、2013 年に内閣府が行った NPO に関する世論調査において、「NPO の活動に参加してみたいと思うかどうか」という問いに対して、20 歳～29 歳の年代の 62%が「参加したいと思わない」と回答。思うと答えた 24.7%（わからないは 13.3%）を大きく上回る結果が出ています。そして、参加したいと思わない理由の約 50%が「参加する機会がない」「関心がない」という回答でした。

上記のアンケート結果をふまえ、私たちは 2 つの問題意識をもっています。一つは、NPO 側が積極的に市民や社会にきちんと情報を開示・発信出来ていないこと、また二つ目に、学生を含めた 20 代の若い方達に関心を持つような伝え方ができていないのではないかとことです。

本プロジェクトでは、上記の問題意識をもとに、大学生である皆さんに京都の市民活動や NPO の現状について仕事を通じて理解を深めていただき、当センターのスタッフとともに、皆さんの視点や言葉で学生を含めた若い層に対して、NPO の現状や必要性について、どのように伝えることが有効か、一緒に検討したいと考えています。

プロジェクトの活動概要

インターンシップ生は、当センターの事業担当者とともに下記の事業に関わっていただきながら、一担当者としてプロジェクトに携わっていただきます。

必須（基礎）活動：

- ・京都市市民活動総合センターの運営サポート（情報収集・発信事業のサポート）
- ・ラジオ番組企画案の作成、ゲストコーディネート・ゲストとの打合せ、収録
- ・センターが運営しているブログ、SNS 等での発信

A（選択）：イベント企画の実施を希望する学生

- ・市民活動を身近な題材から考える企画の立案、イベント広報、イベント運営、結果の分析

B（選択）：情報発信サポートを希望する学生

- ・情報発信を希望する団体スタッフへのインタビュー形式でのヒアリング、
広報文の作成・提案

※上記事業以外にも、きょうとNPOセンターの持つ幅広いネットワークを活用しながら、インターン生の状況や希望に応じて、内容については対応していく予定です。上記枠組みの中で、「こういうことをしたい!」という意欲ある学生を歓迎します。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：		年	月	日	～	年	月	日	日数：	日
日	テーマ	研修内容								
8月上旬	オリエンテーション	NPOの基礎レクチャー、社会的意義・活動事例など								
		情報収集・発信の重要性について								
	プロジェクト基礎OJT	情報収集・発信業務のサポート								
8月中旬	プロジェクト決定	ゴールまでのアクションプランシートを作成する								
～9月中旬	プロジェクト実施	アクションプランに沿ってプロジェクトを進める								
9月下旬	プロジェクトまとめ									
受け入れにあたって										
募集人数： 最大2名										
活動場所・アクセス										
■京都市市民活動総合センター（主としてこちらでの活動になります） 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊街 83-1 「ひと・まち交流館 2 階」 ＊京都市営地下鉄「五条駅」から徒歩 10 分										
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など										
・基本的な PC 操作（■Word、■Excel、■PowerPoint、■メールソフト） ・日常的にウェブサイトを利用していること ・大前提として、社会の課題・NPO・市民活動・社会起業などに対して関心があること A（選択）：イベント企画の実施を希望する学生：「何かを伝えたい」という強い思い B（選択）：情報発信サポートを希望する学生：マーケティングや PR に関する興味・関心										
読んでおくべき事前資料および参考文献										
・「無私の日本人」磯田 道史（著） ※映画「殿、利息でござる」でも可 ・「京都発 NPO 最善戦ー共生と包摂の社会へー」(2018 年 5 月末刊行予定) ・以下ウェブからインターン期間中かかわっていただくプロジェクトの概要をつかんでください										

KYOTO HAPPY NPO! (京都三条ラジオカフェで放送しています) <http://radiocafe.jp/200310001/>
市民活動情報共有ポータルサイト <https://shimisen-kyoto.org/>
* ポータルサイトでは主にイベント・講座・ボランティア情報(終了したもの含む)を必ず見ておいてください。

インターンシップ参加の注意点(持ち物・心構えなど)

- ・プロジェクトに責任を持って最後まで継続して参加できること
- ・原則、インターンシップを優先していただける方
- ・留学生および4回生以上の方でも、関心を持って頂いた皆さんは歓迎いたします。

受け入れ団体について

団体のミッション(活動目的)

京都で活動するNPOへの支援をはじめ、市民社会のさらなる発展を目指して、事業(プロジェクト)型の活動を展開しています。「したい」を「かたち」にしながら、市民が自立性を持ってゆるやかに連帯し、主体的に参画できる社会を築きます。

事業概要

- ・NPOの基盤強化のための支援事業(相談、情報発信・提供、マネジメントコンサルテーション等)・NPOへの融資制度・各種講演会・研修会の開催・行政、企業、大学等との連携事業
- ・京都市市民活動総合センターの運営など

研修先所在地: 〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1

(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」2階 京都市市民活動総合センター

報酬、交通費の支給: なし

連絡先: phone: 075-744-0944/ fax:075-744-0945/ e-mail:office@npo-net.or.jp

研修責任者(スーパーバイザー): 土坂のり子、内田香奈

研修責任者(スーパーバイザー)からのメッセージ

ボランティア体験的なものではなく、NPO や市民活動の課題に直接コミットする、仕事としての要素が高いプロジェクトです。広報・PR 分野やコンサルタント関連企業への就職を希望している方に特にオススメです。短期間でプロジェクトゴールを達成するためには、積極的に学ぶ姿勢と、常日頃の情報収集が望まれます。経験はなくても OK。自分のスキルを伸ばしたい、試したい、とにかく思いっきりチャレンジしてみたい、という学生の方をお待ちしております。

<過去のインターン生の声> NPO に関する知識もちろん増えましたが、「働く」ということを考えるうえで、大きな指標となりました。(法学部 3 回生・男 ※当時) / 1 つのプロジェクトを任せて頂けるので、責任感を持って臨むことが出来ました。(法学部 2 回生・女 ※当時)

This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 evenly spaced horizontal black lines across its entire width, typical of notebook or legal stationery. The paper is otherwise completely empty, with no margins, text, or other markings.

7. 認定 NPO 法人気候ネットワーク

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

自然エネルギー100%社会実現プロジェクト

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

地球温暖化問題、エネルギー問題に関する理解を深め、持続可能な社会の実現へ向けた取り組みに参加し、課題解決へ向けて行動できる人になること

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

気候ネットワークのミッションは、人類の生存を脅かす気候変動を防ぎ、持続可能な地球社会を実現することです。世界第5位の大排出国である日本の温室効果ガスの約9割はエネルギー起源CO2です。このため、気候変動対策のためには、日本で利用されているエネルギーの脱炭素化を進める必要があります。しかし、日本国内においては、自然エネルギー100%のムーブメントは始まったばかりです。このイノベティブなプロジェクトは、これを国内で広げ、主流化させ、新しい常識にしていこうことをめざします。

プロジェクトの活動概要

自然エネルギー学校・京都…気候ネットワークは他の団体と協働で、自然エネルギーの普及のための担い手育成を1999年から開催しています。エネルギーシフトを実現するために市民・地域からの取り組みをサポートする講座です。座学だけでなく、ワークショップなどを行い、知識を深めていきます。

環境教育プログラム…持続可能な社会の実現のためには、次世代へ環境問題を伝えることも重要な活動です。気候ネットワークでは、京都市内の公立小学校の全校で温暖化防止プログラムの実施を担っています。学習会の準備や授業へ参加し、子ども向け環境教育について学びます。

再エネ100%ビジョンに向けた調査…再生可能エネルギー普及に関する国内外の最新動向調査・発信、イベントの企画・運営など、インターン生の希望に沿って業務内容を決定します（過去には、気候ネットワークを通じて国連気候変動交渉会議(COP)に参加したインターン生もいます）。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日	テーマ	研修内容
第1日	オリエンテーション	組織・メンバー紹介 目標/計画設定
第2日	プロジェクト毎の活動	
-	↓	各プログラムの取り組み
-	活動まとめ	活動レポート（ブログ等の執筆）
		※活動時期に合わせて調整可能です。

受け入れにあたって

募集人数：2～3名

活動場所・アクセス

気候ネットワーク・京都事務所 市バス「四條高倉」/地下鉄烏丸線「四條駅」/阪急「烏丸駅」16番出口を出て北へ徒歩2分
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・基本的なPCスキル(Word・Excel・PowerPoint など)、環境問題への関心(特に気候変動問題)やNPOやボランティア活動について興味を持っていること。
読んでおくべき事前資料および参考文献 よくわかる地球温暖化問題(中央法規出版・2009年)、地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ！-(小西雅子 岩波ジュニア新書)、気候ネットワークホームページなど。
インターンシップ参加の注意点(持ち物・心構えなど) 事務所内作業でPCを使用します。個人でお持ちいただくのも可能です。ご相談下さい。

受け入れ団体について
団体名：認定NPO法人気候ネットワーク 団体のミッション(活動目的)： 気候ネットワークは、地球温暖化防止のために活動するNGO/NPOです。地球温暖化防止のために「市民のチカラで気候変動を止める。」を合言葉に、国際・国・地域において重層的な活動を行っています。ひとりひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等をふくめて社会全体を大きく「変える」ために、地球温暖化防止に関わる専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での地球温暖化対策モデルづくり、人材の養成・教育等に取り組んでいます 事業概要:国際交渉への参加／政策提言・調査研究／地域の温暖化防止活動の支援、温暖化防止教育 研修先所在地：京都市中京区帯屋町574番地 高倉ビル305号 報酬、交通費の支給：なし連絡先：075-254-1011 phone:075-254-1011 / fax:075-254-1012 / e-mail:yamamoto@kiconet.org 研修責任者(スーパーバイザー)：山本 元(やまもと はじめ)

研修責任者(スーパーバイザー)からのメッセージ
インターンのプログラム以外にも、学生ボランティアが中心となって進めているプロジェクトもあります。ぜひ、積極的に参加してみてください。NPOやNGOに就職してみたいと考えている方、政策提言などに興味のある方にはおすすめです。

8. 公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市中京青少年活動センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

「なかせいオープンデイ」での企画・広報

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

「なかせいオープンデイ」を通して、中京青少年活動センターの魅力を青少年や地域の方に知っていただき、今後の利用の促進につなげるとともに、青少年の活動発表の機会を作り出す。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

なかせいオープンデイは、中京青少年活動センターのテーマである『若者の活動や課題を社会化する』を形にした事業です。中京青少年活動センターを利用している若者グループと協同し、パフォーマンス発表の場づくりや、ワークショップなど様々な形態で、若者の自主的で多様な活動を発信する機会を提供します。

また、若者に限らず、京都市内の多くの方に、中京青少年活動センターについて知っていただき、利用していただくための利用促進・広報のためのイベントでもあります。

プロジェクトの活動概要

- ・「なかせいオープンデイ」内での企画考案と実施。
- ・「なかせいオープンデイ」における広報の戦略考案と実施。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018 年 9 月 中旬 ～ 2018 年 9 月 下旬			日数：8～12 日
日	テーマ	研修内容	
1 日目	オリエンテーション	センターの事業や施設について説明を受け、企画のイメージを掴む。	
2 日目以降	企画考案	企画を考案し企画書を作成する。	
	企画実施に向けて	協力していただく若者や関係団体と、実際にやりとりを行い企画を進める。	
最終日	ふりかえり	次回以降の企画と運営に活かすためのふりかえりを行う	

受け入れにあたって

募集人数： 2 名

活動場所・アクセス

京都市中京青少年活動センター

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262

（地下鉄「烏丸御池」駅から徒歩 5 分）＊駐輪場あり。

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

青少年や関係団体とコミュニケーションを取りながら、企画を進める意思があること。 また Word、Excel、PowerPoint など基礎的な PC の操作ができることが望ましい。
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 時間厳守はもちろんですが、やむを得ない欠席・遅刻について事前に連絡ができることが最低条件となります。また、活動で知りえた個人情報を守秘できること。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人京都市ユースサービス協会 研修先部署名：京都市中京青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）：青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。 事業概要： 中京青少年活動センターは、街のまんなか使える自遊空間・情報ステーション。京都市の中心部に位置し、京都市全域をカバーする事業として、若者を取りまく社会課題を発信することや、若者の自主的な活動を発信する機会を作っています。 研修先所在地：京都市中京区東洞院六角下る御射山町 262 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone: 075-231-0640/ fax: 075-231-1231/ e-mail: nakagyo@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：北澤

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
企画やイベント運営に興味のある方にオススメです。若者と協力しながら、自分視点で感じたグループの魅力を元に企画を進めていただきたいと思います。また、広報面でもぜひ若者目線で、広く伝わるアイディアをいただけることを期待しています。

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

多文化共生・異文化交流の担い手育成プログラム

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

既存の多文化共生・異文化交流プログラムにおいて、ボランティアによる自主運営を促進するための提案を行う

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

センターでは「多文化共生」「居場所づくり」「青少年の地域参画」をテーマに様々なプログラムを展開しており、今回は多文化共生をメインテーマとして取り組む。

京都市における外国人登録人口のうち、伏見区に占める割合は約 20%であり（平成 24 年 7 月、京都市統計ポータルより）、以前から伏見区には多くの外国にルーツをもつ人々が生活している。そこで言語の支援としてにほんご教室と JTL（Japanese Talking Lesson）、インターナショナルイベントクラブを実施している。ボランティアを青少年が担うことにより、海外の文化を知り視野を広げたり、他者の価値観に触れたりすることで青少年自身の成長につながる経験を経て、多文化共生・異文化交流の担い手を育成することを目指している。

プロジェクトの活動概要

にほんご教室：毎週土曜日 10：00～11：30 に実施（ボランティアはその後 30 分程度振り返り）。

学習内容は学習者のニーズを聞き取り、マンツーマンか小グループで進める。

JTL：毎週火曜日 19：00～20：30 に実施。テーマを設定し日本語でのフリートークを行う。

インターナショナルイベントクラブ：第 1 日曜日 14：00～16：00 にミーティングを、第 3 日曜日に国際交流ができたり多文化共生について学ぶことができるイベントを実施する。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017 年 8 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日	テーマ	研修内容
原則毎週火曜日、土曜日、第 1 第 3 土曜日が活動日となります。		

受け入れにあたって

募集人数：2 名

活動場所・アクセス

伏見青少年活動センター

近鉄・京阪丹波橋駅より徒歩 8 分

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特になし
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 事業参加者や他のボランティアと積極的にコミュニケーションを図ろうとすること。ロビー利用者（主に中高生）と関わってもらう可能性もありますので、恥ずかしがらず自分から話しかける勇気が必要になってきます。 日本語教師の資格は必要ありません。

受け入れ団体について
団体名：京都市伏見青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）： 青少年が本来もっている能力や個性を、最大限に伸ばせるよう支援していこうという「ユースサービスの理念」に則って、様々なサポートを行う。 研修先所在地： 〒612-8062 京都市伏見区鷹匠町 39-2 伏見区総合庁舎 4 階 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone:075-611-4910 / fax:075-604-4910 / e-mail:fushimi@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：受入窓口 井上

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
ユースサービスや青少年育成の視点を意識しながら、ボランティアと一緒に活動に参加してもらいます。将来教師や援助職などの仕事に就きたい方におすすめのプログラムです。

10. 公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

10 代のための居場所づくり

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

中高生を中心とした 10 代の若者が心地よく過ごせる場づくりと、場への参加を通して、多様な人々出会い、仲間と学び、自身をふりかえる機会をつくる。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

「中学生」「高校生」、「10 代」の若者たちが、学校や家以外で過ごせる場、そしてかれらの抱える課題や置かれた状況を問われず過ごせる場は意外と少ないものです。私たちはオープンアクセス型（自由来館）の施設の運営を通して、大人へ成長するかれらの成長を支えることを大切にしています。そこでは、問題に直面したときに手助けを行うだけでなく、普段の関わりの中でかれらとのつながりをつくりまします。トラブルを未然に防ぐのが目的でなく、困ったときに、「困った」と言える関係をつくること、10 代の若者を取り巻くつながりを豊かにすることが私たちの仕事です。このインターンシップでは、実際に 10 代の若者たちに関わりながら青少年活動センターの施設運営やかれらの思いを大切にしたいプログラムの企画、事業への参加を通して 10 代の若者（学校に行っていない人も対象にします）の成長を支える場づくりに関わってもらいます。

プロジェクトの活動概要

- ・南青少年活動センターの集う中高生への日常的な関わり、事業への参加
- ・若者の声を活かした、若者が気軽に参加できる取り組みの企画、運営など

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018 年 6 月 下旬 ～ 2018 年 10 月末 日数：10 日以上

日	テーマ	研修内容
1 日目	オリエンテーション	センターの雰囲気をつかむ
	中高生と関わる	プログラムの運営の補助やセンターロビーで過ごす中高生と関わります
	中高生と一緒に考える	若者たちと過ごす中で、かれらの意見を聞きながら、センターの運営へのプラス意見や若者たちが参加したくなるロビーを活用したプログラムの企画を考えます。
	「場」をつくる！	練った構想をもとに、プランの具体化を進めます。必要に応じて、中高生の参加も促します
最終日	ふりかえり	活動全体をふりかえり、活動を持続させるためのアイデアをまとめます

受け入れにあたって

募集人数：3 名

活動場所・アクセス

京都市南青少年活動センター近鉄東寺駅から徒歩 10 分もしくは、市バス九条大宮 徒歩 5 分

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ワード、エクセルの基本的な操作ができること、メールでのやりとりができること。遅刻や欠席の際は、電話で連絡を入れるなど基本的なことができれば、特別な知識は必要ありません。
読んでおくべき事前資料および参考文献 当センターのブログやフェイスブックに活動の様子をアップしています。雰囲気は、十分につかんでもらえると思います。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 動きやすい服装（ジャージ、スエット、短いスカート、サンダル、ヒール靴不可）で参加のこと 人と関わることが苦手でも「やってみたい」という気持ちがあれば大丈夫です。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人 京都市ユースサービス協会 研修先部署名：京都市南青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）：青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。 事業概要：南青少年活動センター…「たまって、つながる居場所づくり」をテーマに、10代、20代の若者が日常生活から離れて、友だちと1人でほっと過ごせる空間の提供を行っています。 取り組みは、ロビーで中高生と関わる居場所づくり事業、ロビー喫茶の運営、中3学習支援活動の地域活動（清掃活動、夏祭りなど）ボランティア育成など多岐にわたっています。 研修先所在地：京都市南区西九条南田町72 連絡先：京都市南青少年活動センター 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：：phone:075-671-0356 / fax: 075-671-0360 / e-mail:minami@ys-kyoto.org 担当者（スーパーバイザー）：横江

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
中学生、高校生の年代の若者に関わる機会は、案外少ないものです。教員を目指している人、児童福祉、心理職を目指しているみなさんにとって、素顔の10代のかれらにふれる機会は、学び多き時間になると思います。少しだけ年のはなれた、ナナメ関係の大人として、私たちと一緒に活動しませんか。

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

コミュニケーションが苦手だったり、対人関係の構築がうまくいかなかったりする若者の居場所づくり活動（ごぶSAT）の運営を通して、寄り添い型の支援について学ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・ 参加者が安心して参加できる、プログラム型の居場所づくりについて、実践的に学ぶ。
- ・ グループプロセスやグループダイナミクスについて、実践的に学ぶ。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

- ・ 少人数でのグループ体験の場の運営に関わりながら、対人支援のあり方について学ぶ。
- ・ グループの中で起こっている出来事（グループプロセス）を観察し、それが及ぼす影響（グループダイナミクス）がどのようなものかを実践的に学ぶ。

プロジェクトの活動概要

- ・ 毎月3回（第2土曜日の午後、第4土曜日の午後、第2土曜後の火曜日の午後）、少人数でのグループ体験の場（料理やクラフト、レクリエーションなど）ができるプログラムを実施しています。
- ・ ワーカー（職員）は、参加者の課題や目標、想いを共有し、新たな目標設定や、適切な関わり方を確認するため、定期的に個別面談を実施しています。
- ・ インターン生は、居場所ボランティアと共にグループに入り、参加者のフォローをします。
- ・ インターン期間終了までに、インターン生企画のプログラムを実施してもらいます。そのために、下記日程以外にミーティングを設定する場合があります。（別途、日程調整します）
- ・ プログラム後に毎回「ふりかえり」を行い、グループの中で何が起こっていたのか（グループプロセス）、どんな影響があったのか（グループダイナミクス）について、検証します。
- ・ 活動日程は以下の通りで、必要時間数の範囲内でご都合に合わせることができます。

スケジュール

日	テーマ	詳細
7/14(土)	料理	少人数でのグループプログラム
7/17(火)	〃	〃
7/28(土)	レクリエーション	〃
8/11(土)	料理	〃
8/14(火)	〃	〃
8/25(土)	レクリエーション	〃
9/8(土)	料理	〃
9/11(火)	〃	〃
9/22(土)	レクリエーション	〃
10/13(土)	料理	〃
10/16(火)	〃	〃
10/27(土)	レクリエーション	〃

受け入れにあたって
募集定員：2名
活動場所・アクセス 事務所：〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階 京都市北青少年活動センター，および周辺の地域 市バス「北大路新町」「北大路堀川」下車，徒歩 3 分。 地下鉄「北大路」下車徒歩 10 分。
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・ 特別な知識やスキルは必要ありませんが，EXCELとWORDをある程度使えることが望ましいです。 ・ 対人援助の仕事や居場所づくり，心理学，教育学に関心ある人のエントリーを期待します。
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 料理プログラムの日，エプロンや三角巾を持参してください。なければセンターで貸し出します。 ・ 変に構えず，参加者に寄り添い，共に学ぶようなスタンスを心がけてください。 ・ 実習日程は，上に挙げた日程全てでなくてもかまいません。参加できる日程を選択してください。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）： ・ 青少年活動センターの運営を通して，環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など，様々な分野の活動に取り組んでいます。 ・ 北青少年活動センター…青少年が「地域」や「自然環境」について関心を持ち，理解を深めて，社会と関わるきっかけを提供するとともに，青少年の力が発揮できる機会を増やす。また，居場所事業や就労・立ち直り支援事業では，地域若者サポーターなどと連携し，課題を抱える青少年の支援に力を入れています。 事務所所在地： 〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階・4 階 連絡先： phone: 075-451-6700 / fax: 075-451-6702 / e-mail:kita@ys-kyoto.org 担当者（スーパーバイザー）：寺田純子，久住祐香

担当者（スーパーバイザー）からのメッセージ
コミュニケーションが苦手だったり，対人関係の構築がうまくいかなかったりする若者の自己成長につながるような居場所プログラム（少人数でのグループ体験）や気軽に過ごせる場の提供をしています。多様な経験を積み，力を蓄えることで，次のステップへ挑戦する場を一緒に作りませんか。

11. 公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

若者が地域と関わるきっかけ作り

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・地域と関わる活動がしたい、ボランティアしてみたいという若者が、お祭りを通して地域と関わる。
(去年は新規9名の参加)
 - ・地域の方、若者ボランティアの双方が、当センターと関わってよかったと感じる。
- ※上記2つの観点で、具体的な(量的・質的)ゴールについては一緒に話し合っ決めてます。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

- ・地域と関わることにに対してハードルを高く感じている若者、また夏休みに何か新たな体験をしてみたいという若者がいる。そうした若者に、地域のお祭りでのブース出展、地域の方々との交流を通して、地域を身近に感じてもらいたい。
- ・若者の力を借り、お祭りを活気あふれるものにしたいと考える地域の方がいる。

プロジェクトの活動概要

- ・若者がお祭りへの参加を通して地域と関わるきっかけ作りができるよう、次のことを行う。
1. 地域のお祭りの見学・体験
 2. 企画ミーティング(若者への広報やお祭り内の出展ブース内容の考案・準備含む)
 3. 企画の実施(昨年度はゴム銃協会の方の協力を得て、ゴム銃体験ブースを出展しました)
 4. 評価・ふりかえり
 5. その他、必要や関心に応じて調査や資料収集など

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018年7月21日 ～ 2018年11月3日 日数： 10～12日

日	テーマ	研修内容
7/21(土) 予定	地域のお祭りとセンターの取り組みを知る	地域のお祭りの様子と、そこで当センターが行っている取り組みを、実際にお祭りに行き体験する。 (紫明学区夏祭りへ参加予定)
7/28(土) 予定	地域のお祭りを知る	地域のお祭りを見学する。 (新大宮商店街夏祭り見学予定)
未定	若者と一緒に、お祭りに関わる	次回のお祭りについての打ち合わせを行う。
8/4(土) 予定	若者と一緒に、お祭りに関わる	お応募のあった若者ボランティアと一緒に、地域のお祭りでブースを運営する。(楽只学区夏祭り参加予定)
8～10月	若者・地域に関して、自分のできることを考える	月1,2回の頻度で、若者がお祭りにて地域と関わるのできる企画についてのミーティング。
11/3(土) 予定	実践・ふりかえり	地域のお祭りにて、自分たちが考えたブースを出展、またボランティア参加者の補助。 (FUNAOKA STANDARD 参加予定)
未定	若者と関わる・地域と関わる	その他、「若者」や「地域」と関わる体験をする。 (例：地域の環境団体・若者ボランティアと一緒に地域清

		掃)
--	--	----

受け入れにあたって
募集人数：3名程度
活動場所・アクセス 事務所：〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階 京都市北青少年活動センター、および周辺の地域 市バス「北大路新町」「北大路堀川」下車、徒歩 3 分。 地下鉄「北大路」下車徒歩 10 分。
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特になし。
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・センター外でのイベントに行く日は動きやすい服装で来てください。 ・地域のお祭りにて、お酒が販売されている場合があります。活動中、成人されていても飲酒は禁止でお願いします。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）： ・ 青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。 ・ 北青少年活動センター…青少年が「地域」や「自然環境」について関心を持ち、理解を深めて、社会と関わるきっかけを提供するとともに、青少年の力が発揮できる機会を増やす。また、居場所事業や就労・立ち直り支援事業では、地域若者サポーターなどと連携し、課題を抱える青少年の支援に力を入れています。
事業概要： 〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階・4 階 研修先所在地： 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone: 075-451-6700 / fax: 075-451-6702 / e-mail:kita@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：阿部翔吾、森田みどり
研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
お祭りを通しての若者が地域と関わるきっかけ作りに関して、幅広い観点からご意見・提案いただけると幸いです。ご自身の関心に引き合わせて、こういったアプローチができるか、一緒に考え、実行していきましょう。 来られる際は、楽しむ気持ちを忘れずに！

12. 公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市下京青少年活動センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

- * 青少年が地域（商店街）に赴き、地域の人と交流したり行事に参加することで、地域の特徴や、魅力、社会参画とはどのようなものかを知る。
- * 地域の課題を発見する前段階として、地域（の人）と関わることの楽しさを体験的に学ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- * 学生が活動を通じて、地域やそこに住まう人と交流し、“若者ができる地域との関りは何か”を見つけ出す。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

- * 地域の中には様々な資源があります。（人、モノ、カネ etc…）普段生活しているだけでは見えない、知らないことを、自分の目を見て、話を聞いて何が課題なのかを見つけ出してもらいます。（そもそも課題はあるのかも含めて）課題を見つけるために人と交流するのではなく、人と関わる楽しさ、面白さを感じながら課題を発見してもらいます。

プロジェクトの活動概要

- * 実際に地域に赴き、そこに住まう人、商いをしている人と交流する。
- * 地域内で行われているイベントに参加し、イベントのお手伝いや、運営の準備を行う。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日

テーマ

研修内容

マッチング後に調整

受け入れにあたって

募集人数：2名

活動場所・アクセス

京都市下京青少年活動センター

〒600-8202 京都市下京区川端町 13

七条商店街振興組合・七条中央サービス会など

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

- ・特になし。人と関わることに興味がある

読んでおくべき事前資料および参考文献

- ・特になし

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

（心構え）

- ・こちらから訪問させていただき、話を聞いたり、相談をさせていただきます。特に商店の方は自身の生業が最も大切なことです。先方に失礼のないような話の聞き方や、時間をつくってもらっている。という意識をもって臨んでください。

--

受け入れ団体について
団体名：京都市下京青少年活動センター 研修先部署名： 団体のミッション（活動目的）： 子どもから責任ある大人へと成長する青少年を「支援」します。 「支援」とは、青少年が家庭、学校、地域社会、職場及び青少年の自主的な活動の場面といった、あらゆる活動場面への参加を通じて、社会と交わり、青少年自身の興味や関心を豊かにし、青少年が必要とした場合、助言、情報、または多様な人的・物的資源を得られるような「機会」を提供しようとするものです。 事業概要： 1. 青少年が本来持っている力を発揮する場づくり 2. 若者が課題を乗り越えていくための支援 3. 若者の市民参加，地域社会への参加を促す 4. ユースサービスの活動を広く知ってもらうための活動 研修先所在地：京都市下京青少年活動センター（〒600-8202 京都市下京区川端町 13） 報酬、交通費の支給：なし連絡先： TEL:075-353-7750 / fax:075-353-7740/ e-mail: shimogyo@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：田中 周子

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
あなたは自分が住んでいる地域のことをどれくらい知っていますか？「ただ住んでいるだけでほとんど知らない。」そんな人も多いのではないのでしょうか？地域を知ると、思いがけない発見や、人との出会い、交流が生まれます。このプロジェクトを通して、「地域交流」を体験的に学び、あなたが学んだことを、たくさんの人に発信してほしいと思います。

13. 公益財団法人草津市コミュニティ事業団 草津クレアホール

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

あなたも市民パーソナリティ！

ラジオ番組を作ろう！

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

コミュニティラジオ「FMくさつ」サテライトスタジオで市民パーソナリティ体験

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

市民パーソナリティの育成を通じた 街づくり 人づくり

ラジオを通して地域と草津クレアホールをつなぐ市民パーソナリティ体験

- ① ラジオパーソナリティとして広報する
- ② アナウンス講座（ワークショップ）参加

プロジェクトの活動概要

草津クレアホールでは 毎月1回 第4水曜日の（午後1時～2時）FM草津の人気番組の公開放送（サテライトスタジオ）をロビーで行っています。赤ちゃんからお年寄りまで楽しめるロビーコンサートを放送します。番組終了後はアナウンス講座（ワークショップ）を開催し、地域と草津クレアホールをつなぐ番組制作に関わる市民パーソナリティ、を育成します。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2018 年 8 月 日 ～ 2018 年 11 月 日 日数： 10 日

日	テーマ	研修内容
7/25	コミュニティFMとは	スタジオ見学 スタジオパーソナリティー体験
8/22	ラジオロビーコンサート	見学 打ち合わせ
9/26	ラジオロビーコンサート	ワークショップ 番組パーソナリティ体験
10/24	ラジオロビーコンサート	ワークショップ 番組パーソナリティ体験
8月中	サテライト 企画	番組パーソナリティ体験
8月中	スタジオ 企画	番組パーソナリティ体験

受け入れにあたって

募集人数： 5名～10名

活動場所・アクセス

草津クレアホール（JR南草津駅下車徒歩10分）FM草津スタジオ（草津駅から徒歩15分）

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

特になし

一生懸命、真面目に取り組めること

読んでおくべき事前資料および参考文献

草津クレアホール、アミカホールのHP

草津市 草津市コミュニティ事業団のHP
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 活動しやすい服装 ラジオ出演時は公開放送のため 清楚な服装

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人 草津市コミュニティ事業団 研修先部署名：草津クレアホール 団体のミッション（活動目的）：コミュニティの健全な発展と協働のまちづくりに関する各種事業を展開することにより、豊かで希望に満ちた市民社会の創造に寄与すること」を目的に市民自治の活性化に向けた中間支援組織としての機能強化を図りながら志を同じくする人々を結ぶ「かけはし」となり多様な主体が協働できる仕組みづくりと、支援を行っていくことが使命であると考えています 事業概要：公益財団法人草津市コミュニティ事業団は、草津クレアホール指定管理者として、地域の皆さまに「芸術・文化」のある暮らしを提供するとともに、発表や展示の場として、多くの皆さまにご利用いただけるよう努めています 研修先所在地：滋賀県 草津市野路6丁目 15-11 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：草津クレアホール phone:077-561-6100 / fax:077-564-5851 / e-mail:info@creahall.net 研修責任者（スーパーバイザー）： 澤 孝子

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
みなさんが市民パーソナリティとして活動して下さることを楽しみにしています 自分のできること、興味あること、好きな内容でトークしてみてください 草津クレアホール サテライトスタジオで会いましょう！

14. 草津市国際交流協会

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

「国際交流・多文化共生イベントの企画・運営」

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

草津市には現在約 2,000 名の外国人が居住しており、立命館大学の留学生増加計画もあり、今後も増えていく事が想定されている。この外国人が活躍する場を作り、異文化共生社会実現に向けて、学生の新鮮な目で外国人との国際交流・多文化共生イベントを企画・運営して行きます。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

草津市に在住する外国人の人達の多くが、日常生活を含めて相談して行く窓口が無く、活動に参加して行く機会や場が持てないことで悩んでいます。草津市国際交流協会はその人たち向けに定期的に、日本語ひろば「きずな」（毎週土曜日開催）、やさしい日本語サロン（毎週火曜日開催）を開催してそのような場を提供しています。それ以外により広範囲な外国人との交流のためのイベントを定期的で開催していますが、今年度はこのイベントの企画段階より参加いただき、学生の新鮮な感性を発揮頂き、従来にない新しいイベントと一緒に作り上げて行って頂きたいと考えています。イベントに使用する予算も年間予算で計上済みですので、かなりの内容のイベントが計画できると思います。

プロジェクトの活動概要

イベント企画会議への出席（ボランティアスタッフと行うので原則 19:00～21:00 です）

イベント用資材の調達（自分で企画したイベント用の資材／器材の調達）

準備作業（前日の準備作業）

イベント運営（開催日におけるイベントの運営）

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018 年 8 月 日 ～ 2018 年 10 月 日 日数：約 10 日間

日	テーマ	研修内容
8 月	イベント企画会議	ボランティアスタッフとの打合せ
9 月	イベント企画会議	ボランティアスタッフとの打合せ
10 月	イベント企画会議	資材・機材調達業務
10 月	イベント準備作業	事前準備作業
10 月	イベント運営	イベント自体の運営

受け入れにあたって

募集人数：2 名

活動場所・アクセス

草津市国際交流協会（草津市役所 2 階まちづくり協働課）

イベント開催に関しては現在未定（草津市内予定）

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特にスキルは必要ありませんが、外国人と積極的にコミュニケーションしたい人
読んでおくべき事前資料および参考文献 草津市国際交流協会 総会資料、会報誌（KIFA スクウェア）
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 筆記用語

受け入れ団体について
団体名：草津市国際交流協会 研修先部署名：多文化共生部会／事務局 団体のミッション（活動目的）：草津市国際交流協会は人と人との交流を中心とした、民間ならではの事業を展開し市民が優れた国際感覚を身に付け、互いの立場を理解し合い、共に助け合って暮らせるような地域社会を実現する為に、具体的目標を掲げて草津市の国際化を推進し、もって市の発展に貢献している状態を創出します。 事業概要：4つの部会で構成され、それぞれが目標もって活動しています。 ①国際交流・国内交流部会：姉妹／友好都市間の交流・親睦を深める活動をしています。 ②国際理解部会：地元の人に外国文化を紹介することを目的に活動しています。 ③多文化共生部会：日本人と外国人が互いに理解し合い、繋がりを築く活動をしています。 ④広報部会：KIFA スクウェアという会報誌を年4回発行し、KIFAの広報を担当します。 研修先所在地：〒525-8588 草津市草津3丁目13-30（草津市役所2階） 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone:077-561-2322 / fax:077-561-2482/ e-mail:kifa-japan@coda.ocn.ne.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：浦 幹夫（事務局長）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
国際交流・多文化共生は今後の日本社会で非常に重要な内容です。 外国人との交流イベントを企画・運営することにより、外国人とのコミュニケーションの方法も理解できますし、あなたの新しい活動分野が見いだせる事を期待します。

15. 湖南省国際協会

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

日本語を母語としない子どもたちへの学習支援と外国人市民への「使えるにほんご基礎学習」サポートをととして地域の課題や国際協会の役割を学ぶ

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

外国にルーツを持つ児童生徒や保護者が、湖南省国際協会および市・学校・地域ボランティアと学習支援や日本語学習サポートをととしてお互いに顔の見える関係を構築していることを学ぶ。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

【地域の外国人居住者の状況】人口約 5.5 万人、外国人比率約 4.8%、日系ブラジル人、ペルー人で 64%を占める。外国人には制度のカベ、文化のカベ、ことばのカベ、心のカベがあるとされている。日本に定住する外国人が増えており、特に子どもは日本語が理解できないと、進学や就職する際に選択の幅が狭くなってしまう。そこで、外国籍児童生徒への学習支援や保護者への生活に役立つ日本語学習サポートが必要とされている。

プロジェクトの活動概要

【外国籍児童生徒向け学習支援】

- ・日本語初期指導教室（さくら教室）での活動：日本の文化や遊びを紹介する。
- ・「すまいりー水戸」での活動：夏休みの期間に 5 日間程度宿題を手伝う。

【生活者としての外国人に日本語学習サポート】

- ・日本語教室（夜の部）（昼の部）での活動：学校、職場および地域で生活するために役立つ日本語や生活習慣に関する学習をサポートする。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2018 年 8 月 1 日 ～ 2018 年 9 月 30 日 日数：10 日程度

日	テーマ	研修内容
8 月	すまいりー水戸	夏休みの期間に 5 日間程度宿題を手伝う
8・9 月	日本語教室（平日昼の部）	生活に役立つ日本語学習をサポートする
9 月	さくら教室（水曜日）	日本語初期指導教室で日本の文化や遊びを紹介する
9 月	日本語教室（土曜日夜の部）	生活に役立つ日本語学習をサポートする

受け入れにあたって

募集人数：2 名

活動場所・アクセス

JR 草津線甲西駅から徒歩 5 分のところに国際協会があり、甲西駅から活動場所まで送迎します。

中央まちづくりセンター（日本語教室昼の部） 水戸まちづくりセンター（すまいりー水戸・日本語教室夜の部）、水戸小学校（さくら教室）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特にスキルや資格は必要ありません。子どもと接するのが好きであればOKです。
読んでおくべき事前資料および参考文献 湖南省国際協会の総会資料、広報誌（K I Aたいむず）
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 持ち物：筆記用具、飲み物（ペットボトル・水筒） 心構え：外国人を支援するという考え方ではなく、外国人一人ひとりと交流するという考え方で活動していただければOKです。

受け入れ団体について
団体名：湖南省国際協会 研修先部署名：事務局 団体のミッション（活動目的）：協会は、湖南省に住み、働き、学び、国籍や民族を異とする人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きる多文化共生社会の創造に参与するとともに、相互の信頼と共生の精神を育んでいくことを目的とする。 事業概要：語学教育事業（日本語教室）、国際文化・交流事業（ワールドフレンド、ハロウィンパーティ、大人の英会話クラブ）、地域共生事業（南米語学学習教室〔小・中学生向けポルトガル語、スペイン語教室〕、外国語クラブ〔スペイン語、ポルトガル語、中国語〕）、教育支援事業（さくら教室、すまいりー事業への協力）、広報事業（広報誌発行、ホームページ管理） 研修先所在地：〒520-3234 湖南省中央1-1 中央まちづくりセンター内1階 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone & fax：0748-71-4332 / e-mail：kia-kyokucho@gaia.eonet.ne.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：鶴衛 正義（つるえ まさよし）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
湖南省国際協会は市の多文化共生推進プランを実施する中核的な存在として、その役割が期待されています。昨年、インターンシップに参加した学生は、言葉が伝わらないことの辛さ、もどかしさを経験し、自分からポルトガル語を覚えて子どもに話しかけ、心を開いてくれた嬉しかったと語っていました。日本の文化や遊び、宿題の手伝いをしながら外国籍児童生徒と交流し、人と人とのつながりの大切さを実感してみてはいかがでしょうか。

16. シチズンシップ共育企画

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

若者が「社会のつくり手」になる学びや制度をどうデザインするか？
 -中高生対象シチズンシップ教育プログラムと、若者の市政参加の仕組みづくり検討-

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- (1)中高生が「私にも社会を動かす力がある！」という自信を回復し、「私も社会をつくる一員だ！」という自覚を涵養する。
- (2)上記の成長機会を実現するために、どのようなシチズンシップ教育プログラムのデザインが望ましいのか、既存の改善点を明らかとする。
- (3)あわせて、身近な政治参加の場として基礎自治体の政策形成過程での若者参加を推進するために、どのような制度設計が望まれるのかを明らかとする。（3は希望者のみ）

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

中高生の社会参加に関する国際比較調査によれば、日本の若者は「社会はどうせ変わらない」「声をあげても政治は動かない」と思っている層が海外諸国と比べて格段に多いことが示されています。「どうせ何を言ってもやってもムダ…」と思わせてしまう社会環境と、そうではない社会環境では、どのような違いがあるのでしょうか。

当会は主に教育分野からこの問題の解決にアプローチしており、尼崎や静岡では行政や学校、地域団体との協働のもとで中高生を対象とするシチズンシップ教育のプログラムを提供したり、京都では他のNPOらと協働して市政参加の仕組みづくりを進めています。

本インターンシップでは、こうした実践をよりよい形にして前に進めていく提案づくりに取り組んでいただくこととなります。

プロジェクトの活動概要

- (1)現在、尼崎市で行っているシチズンシップ教育の中高生対象プログラムの現場観察を行い、中高生のエンパワメントの過程と課題を見いだす。
- (2)前項で見出された課題を達成していくために、どのような学びのプロセスをデザインすべきかを具体的に検討し、市役所や市教育委員会への提案書にまとめる。
- (3)現在、京都市で進めている京都版「ローカルユースカウンスル」（若者協議会）設置に向けたプロジェクト会議に出席し、その制度設計の改善点を見つけ出し、プロジェクトチームへの提案書にまとめる。（希望者のみ）

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2018年7月下旬～2018年9月下旬 日数：11-14日程度

日	テーマ	研修内容
7月下旬 (1日)	シチズンシップ教育とは？	シチズンシップ教育に関する基礎知識を獲得する。今後の活動内容／予定の確認。
8月中 (3日間)	シチズンシップ教育の現場を観る	シチズンシップ教育の実践に対する改善点を見つけ出す。（高校生対象プログラムの観察）
8月中旬	シチズンシップ教育の	シチズンシップ教育の実践に対する改善点を見

(2 日間)	現場を観る	つけ出す。(中学生対象プログラムの観察)
8 月～9 月 (2 日間)	若者の市政参加促進の 仕組みを検討する (希望者のみ)	若者の市政参加推進のための制度設計の会議に参加し、改善点を見つけ出す。
8/23or24 (1 日) (神戸市)	シティズンシップ教育の プログラムデザインを学ぶ	教員免許講習に見学参加し、シティズンシップ教育のプログラムデザインに関する基礎知識を獲得する。学校教員の思考を理解する。
9 月上旬 (2 日間)	現場での観察結果をふりかえり、 課題達成方策を検討する	現場での観察で収集したデータを整理し、改善点に対する具体化方策を検討する。
9 月中下旬 (1～2 日)	効果的なシティズンシップ涵養に 向けた提案をまとめる	検討した具体化方策をもとに、シティズンシップ教育(や若者の市政参加推進)にかかる現在の取り組みの改善提案を発表する。
9 月下旬 (1 日間)	ふりかえり	体験を通じた気づきや学びを整理する。

受け入れにあたって	
募集人数：2 名	
活動場所・アクセス ・シチズンシップ共育企画事務所(JR 尼崎駅徒歩 10 分) ・その他、活動内容に応じて京都市や神戸市など、他の場所でも行われます。 ・希望があれば、静岡市での高校生対象の実践など、他の取組の参加も歓迎します。 また、各種取組に関する企画検討会議への陪席を希望する場合は別途日程を提示します。	
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・前提としての知識や技能は求めませんが、シティズンシップ教育や青少年支援（ユースワーク）、ワークショップやファシリテーションに関心のある方を歓迎します。 ・PC の基本操作（文書/表計算/プレゼンテーションソフト、E-mail 等）	
読んでおくべき事前資料および参考文献 (1)川中大輔 2016 「社会創造に参加する市民はいかにして育つのか?」, コミュニティ・デザイン論研究会企画／新川達郎・弘本由香里編『「コミュニティ・デザイン論研究」読本』大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所, pp.52-59. http://www.og-cel.jp/issue/energybook/pdf/20160222.pdf (2)日本シティズンシップ教育フォーラム編（唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔監修）『シティズンシップ教育で創る学校の未来』（東洋館出版社、2015 年） (3)加藤哲夫『市民の日本語』（ひつじ市民新書、2003 年） * (1)の文献は、ダウンロードの上、インターンシップ開始前に必ず読了しておいてください。 (2)及び(3)の文献は、インターンシップ期間中に読み進めてください。	
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・必要に応じて課題を示します。出された課題については、キチンと取り組んでください。 ・PC メールは毎日必ず確認をして、返信が必要なものは 2 日以内に返信するようにしてください。	

原則として PC メール以外の通信手段（LINE 等）で本プロジェクトに関するやりとりを行わないようにしてください。

- ・協議の上で決定した活動日の欠席は認められません。やむを得ず欠席を検討しなければ行けない事態が生じた際は、その理由を添えて、一週間前までに担当者に「相談」するようにしてください。

受け入れ団体について

団体名：シチズンシップ共育企画

団体のミッション（活動目的）：

「人々がアクティブな市民になるために、民主的な対話を実感/実現するために。

市民的リテラシーを獲得した民主主義の担い手が育つ社会の実現のために。」

私たちは新しい社会をつくりだしていく力があり、イノベーションの担い手になれます。シチズンシップ共育企画は、その自信や自覚、行動力を育む学びの場をつくる NPO です。

事業概要：

(1)若者の「声」が届く社会をつくる

（若者の社会参加／政治参加を促進するシティズンシップ教育プログラムの企画実施）

(2)市民の「力」が生きる社会をつくる

（NPO マネジメント支援、協働参画まちづくり支援）

(3)共に「学び」を深める教育をつくる

（教育ファシリテーター講座やシティズンシップ教育セミナーの実施、教育者の学び支援）

(4)日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）の運営を支える。

詳しくはウェブサイト参照。URL <http://active-citizen.jp/>

研修先所在地：兵庫県尼崎市次屋 1-2-20 ハイツアメニティ 2-203

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone: 070-6506-0369 / e-mail: kawanaka@active-citizen.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：川中大輔（代表）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

2016 年度に「18 歳選挙権」が実現し、高校生世代の政治参加やシティズンシップ教育への関心も必要性も大いに高まりました。そして、2022 年度からは新たな学習指導要領のもと、高校教育に「公共」という必修科目が新設されることとなりました（それに伴い「現代社会」が廃止）。また、人口減少社会における地方創生の文脈から、若者の地域参加の促しも加速度的に進んで行っています。私たちの活動テーマは現在、ホットトピックの一つであると言えます。とはいえ、多くの実践現場は「手さぐり」でもあります。自由で清新な気風の中で学んでいる皆さんと一緒に「新たな一手」を導きだしていければと願っています。

This image shows a full page of blank white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a template for writing or drawing. There are no margins, text, or other markings on the page.

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

「自信を取り戻す教室」に参加して、思春期の子どもとの関わり方マニュアルの作成

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

思春期の子どもと関わり、「思春期の子どもとの関わり方マニュアル」を作成してください。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

TRY 部は、自信を取り戻す教室です。

自信がない。

コミュ力がない。

リア充なんて、爆発しろ。

そんなネガティブに思っている子どもたちが、やりたいことを見つけて、自分がやりたいことに向かっていくサポートをしている教室です。

子どもは、小学生から高校生までいて、不登校経験の子もいます。

友達とうまくいかない。

勉強のやる気がでない。

いろんな悩みを抱えた子どもたちに寄り添い、ガンバろうという意欲を高めていく教室です。

あなたには、子どもたちの悩みをじっくり聞いてあげ、お兄さんやお姉さんとして、子どもたちに寄り添っていただきたいと思います。

そして、学んだことや得た知識をマニュアルにしてください。

ただ学んだだけではもったいない。

マニュアル作成する過程で、自分で実践できる知識、会得したスキルにしてください。

プロジェクトの活動概要

① 関わり方について勉強

思春期の子どもにどのように関わったらいいのでしょうか？

どんなことを大切にしたらいいのか。

まずは、座学として、基本的な関わり方などについてレクチャーをおこないます。

② 授業へ参加

授業へ参加して、子どもと関わりましょう。

その中で、「どうしたらいいの？」という疑問には、逐一レクチャーをおこないます。

③ 関わり方マニュアルの作成

あなたが学んだことをアウトプットするためにも、自分なりの「思春期の子ども関わり方マニュアル」を作りましょう！

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日	テーマ	研修内容
	オリエンテーション	団体と教室（TRY 部）について学びます
	関わり方講座	基本的な関わり方などについて学びます
	授業参加	授業へ参加し、子どもとの関わりを体験してみます
	振り返り	参加して感じた疑問などを振り返ります
	授業参加	学んだことを活かして、授業で子どもと関わります
	マニュアル作成	得た知識や経験したことをマニュアルにします
	マニュアルの発表	作成したマニュアルを SNS などで発表します
	ふりかえり	全体を通しての振り返りをおこないます

受け入れにあたって

募集人数： 3 名

活動場所・アクセス

草津まちづくりセンター（草津駅より徒歩 5 分）

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

- ・“自信”や“意欲”、“やる気”について学びたいと思っている方
- ・子どもと触れあうプログラムに参加したい方
- ・何度も何度も根気強く考え続けることができる方
- ・必要に応じて課題を提出します。その課題を期限内に PC で作成し、提出できる方。

読んでおくべき事前資料および参考文献

下記の記事や当法人の Web サイトやブログ

○『だれもが子どもの「やりたい!」を応援できる社会へ。

「NPO 法人 D.Live」田中洋輔さんに聞く、今すぐできる、子どもの自信を育む関わり方』

(<http://greenz.jp/2016/02/15/dlive/>)

○「自信のない君」へ送り続けるエール・前編

<http://www.blog.dlive.jp/2016/07/05/yell-for-kids-1/>

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

- ・ とにかく、どんどん失敗してください。出来なくても問題ありません。
- ・ 期限や時間は厳守してください
- ・ 持ち物については適宜お知らせします（基本、手帳やメモ帳、ペンなどです）

受け入れ団体について

団体名：NPO 法人 D.Live

研修先部署名：

団体のミッション（活動目的）：

『子どもがなりたいたい自分に向かって思いきり取り組める社会をつくる』

能力や環境、才能に関わらず、どんな子どもでも、自分の未来に向かって希望を持てるようにしたい
と思い活動をおこなっています。

教室運営の他にも、ひとり親家庭の子ども向けの居場所、不登校の昼の居場所。保護者や教員も向け
の研修などもおこなっています。

事業概要：

TRY 部は、子どもの自信を取り戻す教室です。行き渋りがある子。学校へ行けない子が、自分自身と
向き合い、自信を取り戻していきながら、やりたいことに向かって一歩を踏みだすことができるよう
になるところです。

研修先所在地：525-0066

滋賀県草津市矢橋町 105-1 406

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：

phone: 077-543-5771 / e-mail: info@dlive.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

TRY 部では、大学生やスタッフも一緒に授業に参加します。

「やりこいことを見つけるワーク」や「自分に自信がつく機会」などがあり、子どもとの関わりが学

べるだけでなく、参加していてタメになる、楽しい授業です。

見学に来る大人のかたたちは、口をそろえて、「子どものときにこんな授業を受けていたかった」と言います。

どこにもない、日本に一つだけの“自信を取り戻す教室”、体験してみませんか？

18. 社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター野洲

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

野洲市障がい児サマースクールへの参加を通して、障害児への余暇支援について、ボランティアコーディネートの実践について、一緒に考え学びましょう。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・ 障害児の余暇の充実に向けた活動の企画・運営の補助
- ・ サマースクールでのボランティア体験と、集団作りや運営についての学び

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

野洲市障がい児サマースクールは、市内の障害があるお子さんの余暇支援事業です。一日定員20名で、夏休みの遊びの機会を提供しています。利用されるお子さんの障害や特性を理解し、それを踏まえた事業の運営、活動の展開について学んでください。

また、当事業は1日平均20名、開催期間延べ400名程度のボランティアに支えられて運営しています。中学生からご年配の方まで、それぞれの経験や立場で事業に携わっていただいています。一緒に活動する中で交流を図り、ボランティアの意義について考えていただくとともに、多様なボランティア集団の中で安全に事業を運営するためのボランティアコーディネートについて学んでいただければと思います。

プロジェクトの活動概要

- ・ サマースクール利用者の担当として、一緒に過ごしていただきます。
- ・ 事前研修会・毎日のミーティングに参加し、利用者の支援について学ぶとともに、ボランティアの皆さんと積極的に意見交換をしてください。
- ・ 活動の企画・運営に参加していただきます。
- ・ 担当者との振り返りを行います。インターンシップの感想に留まらず、事業の課題についても考察してください。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2018年7月 日 ～ 2018年 8月 日 日数：5～10日程度
サマースクールの開催日程は、5月頃に決まる予定です。

日	テーマ	研修内容
	事前研修会 オリエンテーション	びわこ学園医療福祉センターの概要、野洲市障がい児サマースクールの概要、障害のある子どもとの関わり方についての説明。会場の見学。
	事前準備	サマースクールの会場設営 利用者支援についての最終確認
	サマースクール開校 ＊7月末～8月末。土日、お盆 休みを除く18日間開催予定。	スタッフとしてお子さんの支援やミーティング、活動運営に参加
	片付け・反省会	サマースクールの会場片付け・事業の振り返り

受け入れにあたって
募集人数：4名
活動場所・アクセス びわこ学園医療福祉センター野洲 地域交流スペース会議室 （＊近隣への外出を伴う活動内容もあり） JR野洲駅からの送迎あり（駅南口8：40発） マイカー・バイク可
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 必須ではありませんが、障害の知識や障害児者支援の経験があると良いかと思います。 事前研修会にて、事業の内容や障害児支援のポイント等を説明します。
読んでおくべき事前資料および参考文献 事前研修会資料
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・子どもと遊ぶのに適した服装でお越しください。 ・ヘアピン・ネイルの装飾・ピアス等、紛失・落とす可能性のある物は身につけないようにしてください。（利用者が拾って食べてしまう危険があります） ・昼食は各自でご用意ください。（事前申込みの上、食堂を利用することも可能。定食400円） ・楽しい時間を子どもたちと共有することを大切にしていだければと思います。
受け入れ団体について
団体名：びわこ学園医療福祉センター野洲 研修先部署名：生活支援部 団体のミッション（活動目的）：障害児の長期休暇の過ごししの充実。 事業概要： 野洲市障がい児ホリデーサービス事業…野洲市内在住の障害のある子どもたちへの余暇支援事業。（野洲市からの委託事業） 研修先所在地：〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978-2 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone: 077-587-1144 / fax: 077-587-4211 / e-mail: m_hirovani@biwakogakuen.or.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：廣谷真実子（ひろたにまみこ）
研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
野洲市障がい児ホリデースクールは、「障害のある子どもたちが楽しく安全に過ごす」ことが大きな目的です。それだけには留まらず、日常にはない学校を超えたお子さん同士の触れ合い、ご家族同士の繋がり、ボランティアとの関わりを経験していただける場でもあります。 障害児支援の専門的な経験を持たないボランティアとの関わりは、お子さんにとって困惑することもあるかもしれませんが、そういった困惑をお子さん、ボランティアの皆さんが受け止めて関係を築いていく姿をサポートしながら見守っています。 インターンシップを通して事業運営について学ぶだけでなく、参加者の皆さんの姿から人間関係を築いていく力を一緒に感じ取っていただければと思います。

19. 特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

子どもが抱える「困った」を地域で解決していくための取り組み、仕組みづくり

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

地域の中で過ごす子どもが抱える「困った」を、解決するための取り組み、仕組みづくりの基盤を学生達と共に作り出す。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

子どもの貧困、虐待、いじめなど子どもを取り巻く環境は複雑化し、集団になじめなかったり、勉強に遅れが出るなど地域、家庭、学校などで「困った」を抱えた子ども達も多くなっている。子どもたちの「豊かな育ち」のため、そういった「困った」の解決からよりよい学びや体験の機会といったアクションを“まち”としてどのように創出していくか。アクションを支える基盤を作っていくかを考えていく。

プロジェクトの活動概要

子どもの生活・学習・余暇支援、学校サポートから取り組みを考える

（※プロジェクトは予定のため、活動内容が大きく変更される場合があります。）

山科・醍醐地域の子どものたち（主にひとり親家庭、生活保護世帯の小学生～中学生）に以下の支援を実施し、その運営に携わっていただきます。

1. 暮らしサポート：食事・入浴・学校の宿題など夜の生活を共に過ごします。
2. 学びサポート：予習・復習・学校の宿題など、子どものペースに合わせた学習をします。
3. 学校サポート：宿題等の学習サポートや放課後遊びを行います。
4. 余暇サポート：地域イベントへの参加やブース運営などを子どもと一緒にいきます。
5. 食事サポート：月に1回の地域での食事会の運営を行います。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 日数： 日

日	テーマ	研修内容
	ガイダンス、学び①	子どもを取り巻く社会課題、組織、活動を知る。
	学び②、考える①	活動を支える基盤とマネジメント、アクションを考える
	実践①、振り返り①	アクションプランに沿って準備、既アクションの検証
	実践②、学び③	それぞれ考えたアクションを実践、現場へ、振り返り
	実践③、学び④	それぞれ考えたアクションを実践、振り返り
	振り返り②、考える②	実践を踏まえての再プランニング
	評価、提案、振り返り会	全体の取り組みの評価、団体への提案、振り返り

受け入れにあたって

募集人数：2～3名

活動場所・アクセス

山科醍醐こどものひろば こども生活支援センター（山科区竹鼻堂ノ前町 18-1 山科駅徒歩7分）、
醍醐事務所（伏見区小栗栖森本町 20-22 地下鉄石田駅徒歩10分）他山科醍醐地域内各連携先

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 子ども、ボランティア、NPO などにまつわる基礎知識。 ワード／エクセル、facebook などの SNS、パソコンをほどよく使える
読んでおくべき事前資料および参考文献 山科醍醐こどものひろばに関する web 媒体。(HP 等参照) 書籍「こどもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち」「まちの子どもソーシャルワーク」(かもがわ出版)
インターンシップ参加の注意点 (持ち物・心構えなど) 学校等との連携事業もあるため、自覚を持って立ち振る舞ってください。

受け入れ団体について
団体名：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば 研修先部署名： 団体のミッション（活動目的）： 地域に住むすべての子ども達が、心豊かに育つことを目指し、地域の社会環境・文化環境がより良くなることを目的とした NPO 法人です。 子どもと大人が一体となって、ものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ち合いたい”との願いを大切に、日々の活動をしています。子ども同士・子どもと青年や大人・青年と大人など、あらゆる人にとって、自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にしています。 事業概要： 子育てサポート事業：「げんきスポット 0-3」（0～3 歳の親子の自由来館スペースの運営） 体験活動：「わんぱくクラブ（幼児～低学年）」「Jr. キャンプ（小～中学生）」「創作劇（子どもと大人の表現ワークとそこから生まれる劇の公演）」「町たんけん（地域の文化や歴史にふれる）」子ども個別サポート活動：「楽習サポートのびのび（生活・学習・余暇支援、子どもの貧困対策事業）」地域との連携活動：「こどもフェスタ（年 1 回主催 1000 名ほどの参加者）」等 研修先所在地：京都市山科区竹鼻堂ノ前町 18-1 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone:075-591-0877/ fax:同左/ e-mail:vo.kodohiro@gmail.com 研修責任者（スーパーバイザー）：品田、津田、川島、村井

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
子どもの貧困、虐待、いじめなど様々な社会課題を抱える子どもたちと、学生として関わる中で、その子たちの抱える“困った”に気づき、それに対して何ができるのか、まちにどのようなアクションが必要なのか、子どもたちがどうしてほしいかなどを子どもの声を聞き、考え、実践してもらえればと思います。

20. 特定非営利活動法人ユースビジョン

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

輝く学生応援プロジェクト「むすぶネット（学生・地域連携ネットワーク）」
登録学生サークルへのヒアリング調査

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・ 普段は顔を合わせることのない学生サークルから、利用状況や困りごと・要望等を調査する。
- ・ 学生サークルが「むすぶネット」に何を期待しているのか、地域団体からの依頼を受ける際の引き受けやすい状況等を調査することで事務局のサポート/仕組みを充実させる。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

当団体は、京都市人口の約1割（約14万人）に当たる学生の力を京都のまちの活性化、「京都力」向上、未来の京都づくりに繋げるため、京都のまちの活性化につながる活動を行う学生団体を総合的にサポートする「輝く学生応援プロジェクト」を京都市から受託し運営しています。

「むすぶネット（学生・地域連携ネットワーク）」は本プロジェクトの事業のひとつで、発表の場を求めている、地域で活動してみたいと思っていたりする学生サークルと、お祭りや行事へ学生の参加を求める地域の団体とをインターネットで「むすぶ」=コーディネートするネットワークです。利用は登録制で、地域団体・学生サークルのやり取りは「むすぶネット」のシステム上で行われています。

運営している中での課題として、地域団体から学生サークルへ出演依頼があった際、連絡調整がスムーズにいかない、マッチングに結び付きにくいという点があります。また、学生サークルの地域連携に対する考え方や「むすぶネット」の満足度など把握ができていない現状があります。

事務局スタッフと学生サークルとの関係というのは、普段は手続きのやり取りや事務的な連絡のみで生の声を聴く機会がありません。そこで、本インターンシップでは、「むすぶネット」に登録している学生サークルへのヒアリング調査を行なっていただきます。同じ学生という立場だからこそ話してくれることや、理解できる点があるかもしれません。そしてヒアリング調査をもとに、「むすぶネット」をより良くし連携活動につなげていくための提案を行なっていただきます。

プロジェクトの活動概要

- ・ 「むすぶネット」登録学生サークルの活動場所へ出向き、利用状況・ニーズ調査を行う。
- ・ 調査内容をまとめ、地域団体・学生サークル双方の利用が円滑になるための改善提案を行う。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：		年	月	日	～	年	月	日	日数：	日
日	テーマ		研修内容							
	面談/オリエンテーション		目標の共有とむすぶネットの理解							
	連携活動の見学		連携活動の現場に出向き、取材/見学する							
	①アポ取り		①訪問先（登録団体）にアポイントメントをとる							
	②訪問シミュレーション		②訪問時のロールプレイングを行う							
	訪問/ヒアリング		アポイントメントの取れたところから順に訪問し調査を行							

		う
	調査内容のまとめと提案内容の検討	
	提案	事務局スタッフへ調査内容の報告と提案を行う
	ふりかえり	

受け入れにあたって
募集人数：1～3名程度
活動場所・アクセス ①打ち合わせ・作業： キャンパスプラザ京都1階 学生 Place+（がくせいぷらす） ②その他、京都市内（学生サークルの指定による）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・基本的なパソコンスキル（ワード・エクセル・メールの送受信・ネット検索等） ・挨拶などの基本的なマナー ・初対面の学生サークル担当者と対話ができるコミュニケーション能力 ・地域活性化やまちづくり、ボランティア活動への興味・関心 ・積極的に取り組む姿勢 ・相手の立場に立って考えられる力 その他： <u>※大学の授業や他のインターンシップ、就職活動、アルバイト、実習、旅行、サークル活動等により、活動日程がタイトな方は受け入れ不可です。ご自身で7・8・9月のスケジュールの確認をしてください。</u>
読んでおくべき事前資料および参考文献 ・学生 Place+ホームページ ・「むすぶネット」ホームページと過去の取材記事/動画
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ①持ち物：筆記用具、その他別途指示します。 ②心構え：同じ学生とはいえ、立場を変えて接することとなります。基本的なマナー（挨拶・敬語・無断欠席/遅刻は厳禁等）を意識していただくことはもちろん、事務局スタッフとしての自覚を持って活動してください。 受け身ではなく、主体的に質問・発言・提案し、分からないことは自分で調べるなど積極的に取り組んでください。

受け入れ団体について
団体名：特定非営利活動法人ユースビジョン 研修先部署名：輝く学生応援プロジェクト「学生 Place+」 団体のミッション（活動目的）： より良き社会の実現に向けて、主体的に社会に参加し、社会を創造し、社会を変革していく意欲、知

識、スキルを持つ若き市民を育成します。

事業概要：

〔ボランティア活動環境整備〕ユースボランティアの受け入れ体制整備支援

〔大学ボラセン支援〕全国の大学ボランティアセンター設立・運営支援

〔NP0 スタッフ育成〕新たな担い手育成のためのインターンシップのコーディネート

〔リクルート〕NP0 等の就職に関する情報・人材のコーディネート

〔ネットワーク形成〕NP0 等で働く若手スタッフ・ボランティアの分野を超えたネットワークづくり

研修先所在地：

〒600-8216 京都市下京区西洞院塩小路下るキャンパスプラザ京都 1 階

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone:075-353-3107 / fax:075-353-3108 / e-mail:kato@youthvision.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：加藤胡桃

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

社会を経験した大人ではなく、学生だからこそ感じられる価値や魅力、または改善点があると思います。感性を生かして、様々な角度から切り込み、アイデアを提供していただくことを期待しています。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

20. 特定非営利活動法人ユースビジョン

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

輝く学生応援プロジェクト「学生 Place+（がくせいぷらす）」登録団体へのヒアリング調査

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・ 普段学生 Place+を利用している学生団体からの利用状況調査を通して、学生 Place+の利用を促す。
- ・ 学生団体へのヒアリング調査から、学生 Place+が提供するサポートの改善に繋げる。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

当団体は、京都市人口の約 1 割（約 14 万人）に当たる学生の力を京都のまちの活性化、「京都力」向上、未来の京都づくりに繋げるため、京都のまちの活性化につながる活動を行う学生団体を総合的にサポートする「輝く学生応援プロジェクト」を京都市から受託し運営しています。「学生 Place+」とはこのプロジェクトの運営拠点として平成 22 年にキャンパスプラザ京都 1 階に設置されました。この学生 Place+では、ミーティングスペースや活動に必要な備品の貸出/情報発信/活動相談/地域連携事業等を行なっています。

学生 Place+の利用は登録制で、現在 30 の学生団体が登録していますが、以下のような課題があります。

- ①利用する学生団体に偏りがあり、登録をしても利用がない学生団体が多い。
- ②利用する学生団体が限られていることで来場者数も年々減少傾向にある。
- ③学生 Place+の利便性や学生団体が悩んでいる・困っていること、求めるサポート等を聴く機会がない。
- ④ミーティング目的での来館が多く、館内の掲示板やスペースを十分に活用できていない。

そこで、本インターンシップでは、学生 Place+に登録している学生団体へのヒアリングを通して、利用状況や活動の悩み、必要な支援メニュー等の調査を行なっていただきます。学生団体の傾向や必要なサポートを学生目線で提案していただきたいです。

プロジェクトの活動概要

- ・ 学生 Place+登録学生団体の指定した場所へ出向き、利用状況・ニーズ調査を行う。
- ・ 調査内容をまとめ、学生 Place+の利用がより高まり学生団体のニーズにマッチした拠点となるよう、サポート内容・改善点を提案する。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：		年	月	日	～	年	月	日	日数：	日
日	テーマ	研修内容								
	面談/オリエンテーション	目標の共有と学生 Place+の理解								
	連携活動の見学	連携活動の現場に出向き、取材/見学する								
	①アポ取り ②訪問シミュレーション	①訪問先（登録団体）にアポイントメントをとる ②訪問時のロールプレイングを行う								
	訪問 or 学生 Place+/ヒアリング	アポイントメントの取れたところから順に訪問し調査を行う								

	調査内容のまとめと提案内容の検討	
	提案	事務局スタッフへ調査内容の報告と提案を行う
	ふりかえり	

受け入れにあたって
募集人数：1～3 名程度
活動場所・アクセス ①打ち合わせ・作業： キャンパスプラザ京都 1 階 学生 Place+（がくせいぷらす） ②その他、京都市内（学生団体の指定による）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・基本的なパソコンスキル（ワード・エクセル・メールの送受信・ネット検索等） ・挨拶などの基本的なマナー ・初対面の学生団体担当者と対話ができるコミュニケーション能力 ・地域活性化やまちづくり、ボランティア活動への興味・関心 ・積極的に取り組む姿勢 その他： <u>※大学の授業や他のインターンシップ、就職活動、アルバイト、実習、旅行、サークル活動等により、活動日程がタイトな方は受け入れ不可です。ご自身で 7・8・9 月のスケジュールの確認をしてください。</u>
読んでおくべき事前資料および参考文献 ・学生 Place+ ホームページ
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ①持ち物：筆記用具、その他別途指示します。 ②心構え：同じ学生とはいえ、立場を変えて接することとなります。基本的なマナー（挨拶・敬語・無断欠席/遅刻は厳禁等）を意識していただくことはもちろん、事務局スタッフとしての自覚を持って活動してください。 受け身ではなく、主体的に質問・発言・提案し、分からないことは自分で調べるなど積極的に取り組んでください。

受け入れ団体について
団体名：特定非営利活動法人ユースビジョン 研修先部署名：輝く学生応援プロジェクト「学生 Place+」 団体のミッション（活動目的）： より良き社会の実現に向けて、主体的に社会に参加し、社会を創造し、社会を変革していく意欲、知識、スキルを持つ若き市民を育成します。 事業概要：

〔ボランティア活動環境整備〕ユースボランティアの受け入れ体制整備支援
〔大学ボラセン支援〕全国の大学ボランティアセンター設立・運営支援
〔NPO スタッフ育成〕新たな担い手育成のためのインターンシップのコーディネート
〔リクルート〕NPO 等の就職に関する情報・人材のコーディネート
〔ネットワーク形成〕NPO 等で働く若手スタッフ・ボランティアの分野を超えたネットワークづくり

研修先所在地：

〒600-8216 京都市下京区西洞院塩小路下るキャンパスプラザ京都 1 階

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone:075-353-3107 / fax:075-353-3108 / e-mail:kato@youthvision.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：加藤胡桃

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

京都市内で皆さんと同じ大学生たちがどのような活動を展開しているのか、知っていますか？このインターンシップでは、多岐にわたるジャンルの活動に触れられます。学生たちが日頃どのようなことに悩み、私たち大人にどのようなサポートを求めているのか、学生という立場だからこそ引き出せるニーズがあると思います。そのニーズを汲み取って、アイデアを提供していただくことを期待しています。

This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 evenly spaced horizontal black lines across the entire width of the page, typical of notebook or legal stationery. There are no margins, text, or other markings present.

21. 特定非営利活動法人 NPO ワイワイあぼしクラブ

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

障害のあるなしにかかわらず、普通の暮らしの中で「共に育つ」ことの意味を理解する。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

子ども達の学習・遊び等の活動を通して、またグループダイナミクスを通して個々の子ども達と支援者の関わりを深め、これからのコーディネーターの活動に活かす。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

年齢的にも幅があり、種々の障害を持った子ども達と持たない子ども達の日常的な関わりを通して、世代間交流の場を通して「互いの存在を認め合う」とはどういうことなのかを考える。

共に関わり合いの持てる場と共有できる活動の開拓。

プロジェクトの活動概要

地域の子ども達と約1週間向き合い・寄り添い・共感的な関わりを持ち、互いの違いを認めながら支えあうことの意味を知る

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年 7月 21日 ～ 2017年 8月 31日 日数：6日

日	テーマ	研修内容
7月21日から8月31日 AM9:00～PM16:30 16:30～17:00 整理研		*前半、後半の2回に分けてそれぞれ約一週間実施する。 *実施日は受講者と話し合って決める。 *実習の途中で当NPOの事業所見学と理事長の講話を聞く。 *実習最終日振り返り（一週間の感想を聞く。）

受け入れにあたって

募集人数：4名

活動場所・アクセス

湖南省石部東7丁目5番9号 あったかほーむ「いしべ宿」 TEL：0748-77-6723

JR 琵琶湖線 草津駅-乗り換え-JR 草津線 石部駅下車

石部駅前・めぐるくん(バス)-医療センター下車-徒歩1分 石部駅より徒歩30分

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

経験、知識特になし(グループワークの経験者歓迎)。子どもが好きで、福祉に興味のある人

読んでおくべき事前資料および参考文献

滋賀県社会福祉協議会から出されている「みんなちがってみなおなじ」

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

・活動しやすい服装、運動靴、帽子（子ども達の刺激にならない服装に気をつけてください。）

受け入れ団体について
団体名：NP0 ワイワイあぼしクラブ 研修先部署名：あったかほーむ いしべ宿 団体のミッション（活動目的）： 知的障害者グループホーム、痴呆性高齢者グループホームの運営、障害児者の余暇活動支援、太陽光による市民共同発電所などの環境保全等の事業に「小規模」・「多機能」・「分散」「双方向」を基本として活動している。 事業概要： 学童の放課後や、障害児者の余暇支援、日中一時支援事業（障害児）、子育てサロン（場所提供）等、地域からの要望を受けて、誰もが利用でき、また世代間交流の機能を持つ場所として運営されている。 事務所所在地：滋賀県湖南市石部7丁目5-9-1 連絡先：あったかほーむ いしべ宿 phone: 0748-77-6723 / fax: 0748-77-6723 / e-mail: npowai@ex.biwa.co.jp 担当者（スーパーバイザー）：中川豊

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
約一週間の短い期間であっても、子ども達と楽しい時間を共有し、ふれあい・ひびきあい・育ちあう心を見つけてください。また、人との関わりを創造していくことに努めてください。